

選挙のバリアフリー推進事業実績報告書

2024年3月

小牧市障害者団体連絡会
特定非営利活動法人で・ら・しえん

はじめに

2023年度、小牧市障害者団体連絡会と特定非営利活動法人で・ら・しえんとは、共同で小牧市市民活動助成金に応募し「選挙のバリアフリー推進事業」に取り組みました。

この実績報告書は、選挙のバリアフリーは、単年度の取り組みでは達成できないことから継続的な取り組みが必要であり、何ができ、何ができなかったのかということ記録し、小牧市や近隣市町でこの課題に取り組む仲間と共有していきたいと考え、作成するものです。

講演会講師の堀川諭先生、名古屋での活動報告をしていただいた浅野美子さん、そして、アンケートに回答してくださったみなさん、その仲介をしていただいた事業所のみなさん、その他この事業の推進に御協力くださったみなさんに御礼を申し上げます。

2024年3月

小牧市障害者団体連絡会
特定非営利活動法人で・ら・しえん

この実績報告書には、Uni-Voice の音声コードの添付が間に合いませんでした。視覚障害のある人への配慮はあらためていたしますので御容赦ください。

もくじ

1	選挙のバリアフリーの取り組みにいたる経緯	1
2	市民活動助成金交付事業「選挙のバリアフリー推進事業」	3
	（資料1）選挙のバリアフリー推進事業 活動計画書	5
	（資料2）市民活動助成金交付決定通知書	9
	（資料3）小牧市市民活動促進委員会提言書	10
3	【取り組み1】講演と意見交換会「選挙のバリアフリーの取り組み」	11
	（資料4）8月27日講演会資料（抜粋）	15
	（資料5）8月27日講演会チラシ	16
4	【取り組み2】障害のある人の選挙のバリアフリーアンケート	17
	（資料6）障害のある人の選挙のバリアフリーアンケート結果のまとめ	18
5	【取り組み3】ワークショップ「社会を変えよう！選挙に行こう！障害のある人の選挙のバリアフリーを進めよう！」	38
	（資料7）11月26日ワークショップチラシ	39
6	【取り組み4】当事者がつくる障害特性別投票支援マニュアルの取り組み	43
	（資料8）当事者がつくる障害特性別投票支援マニュアル作成の方針(案)	44
	（資料9）障害特性別支援マニュアル（素案）	46
7	まとめ	50
	（資料10）小牧市障害者団体連絡会通信 No.13～No15	52

1 選挙のバリアフリーの取り組みにいたる経緯

小牧市障害者団体連絡会は、2020年2月に6つの正会員団体と4つの賛助会員団体とで設立しました。

会の目的は、「つながって→広げる」をキャッチフレーズにしているとおり、小規模の当事者団体、支援者団体が連携して、市民に共同して発信していき、誰もが暮らしやすいまちづくりに貢献するというものです。

会の活動をしながら、視覚障害のある人、聴覚障害のある人、重度心身障害のある人、知的障害のある人などそれぞれに困っていることが違い、それらの団体の活動にもいろいろあることがわかり、「つながる」ことの意味もわかり始めていたところ、「広げる」の方について、共同して市民にアピールしていくことのテーマを具体的にイメージすることがむずかしく、活動の方向を模索していたところでした。

そのような状況のところに、2021年7月に実施された参議院選挙を機に私たちの前に浮かんできたテーマが、「選挙のバリアフリー」でした。

連絡会通信2022年8月号で、「7月の参議院選挙 障害のある人はどのように投票に参加されているのか」仲間の体験やエピソードを取り上げたことがきっかけとなり、あらためて、基本的人権として保障されている参政権が、障害があるゆえに実際にはその保障が万全ではないことが多く、どの障害のある人にも共通のテーマとなりうるものでした。

「障害者 選挙」でネット検索すると、NHKが「みんなの選挙」というサイト¹を立ち上げており、全国各地の取り組みを掲載していました。なかでも、東京都狛江市では、市と狛江市手をつなぐ親の会などが連携してさまざまな取り組みをされていることがわかりました。この年11月に、思い切って、狛江市手をつなぐ親の会の森井会長に電話したところ、狛江市の平林浩一副市長を御紹介いただき、20

¹ 障害者の選挙での投票に役立つ情報まとめ みんなの選挙 NHK
<https://www3.nhk.or.jp/news/special/minnanosenkyo/>

23年3月には平林副市長、森井会長（オンライン参加）の講演会を開催することができました。この障害者団体交流会では、瀬戸市で選挙のバリアフリーに取り組んでおられる林ともみさんにも参加いただきました。

このときは、現地40名、オンライン12名の参加で充実した集会となり、先進の取り組みを学ぶ機会を得たことで、この「選挙のバリアフリー」というテーマが小牧市障害者団体連絡会の構成団体の共通のテーマとしてふさわしいものであると実感できました。

これまで小牧市障害者団体連絡会で取り組んできた障害者差別解消法の学びなどを生かして、具体的に実践的に取り組むことができる課題だと認識できました。

2022年度小牧市市民活動助成金交付事業

2022年度障害者団体交流会

選挙のバリアフリーを 考えよう



選挙権は、性別、財産、障害の有無などにかかわらず、ひとりひとりに平等に与えられています。しかし、投票所への移動、投票所の環境、情報の保障などにバリアがあるなど、必ずしも障害のある人にとって投票しやすい環境が整っているわけではありません。環境を整えるのは、障害のある人の取り組みだけでなく、むしろ、社会の側が協働して取り組む必要があります。障害のある人だけでなく、多くの市民のみならずと一緒に、「選挙のバリアフリー」について考えてみたいと思います。

参加費無料
手話通訳・UDトーク
あります



《プログラム》 第1部 講演「わたしの1票を！～狛江市の選挙支援の取り組み」
講師 東京都狛江市 副市長 平林浩一さん
ゲスト 狛江市手をつなぐ親の会 会長 森井道子さん(オンライン)
ラジオパーソナリティー 林ともみさん

第2部 参加者による意見交換会
進行 小牧市障害者団体連絡会 共同代表 山中和彦

日時 **2023年3月5日(日)**午後1時30分～4時まで
場所 小牧市総合福祉施設ふれあいセンター3階大会議室 (小牧市小牧五丁目407番地)
定員 60名 ※オンラインによる参加も可能。Zoom使用、30名
対象 障害のある人、障害のある人の家族、支援者ほかどなたでも
申込方法 FAXまたはホームページから 3月3日(金)締切

スマートフォンアプリ (Uni-voice) を使って下のQRコードを読み取ることでこのチラシの内容を音声で聞くことができます。

申込方法は、裏面をご覧ください。

主催 小牧市障害者団体連絡会
後援 小牧市 小牧市選挙管理委員会 小牧市教育委員会
特定非営利活動法人こまき市民活動ネットワーク




2 市民活動助成金交付事業「選挙のバリアフリー推進事業」

(1) 2023年度市民活動助成金に事業費補助で申請しました。

申請事業内容は、資料1のとおりです。

事業内容は、次の5つとしました。

(ア)当事者(家族含む)アンケート調査の実施(8~10月)

(イ)講演会「選挙のバリアフリーについて」(8月)

(ウ)わかりやすい選挙広報の取り組み(9月)

(エ)当事者がつくる障害特性別投票支援マニュアル(11~2月)

(オ)事業報告書の作成(2~3月)

(ア)のアンケートでは、障害のある人やその家族が、選挙についてどういう思いでいるのかを調査し、(4)の当事者がつくる障害特性別投票支援マニュアルに繋げる考えでした。

(イ)の講演会では、障害のある人、支援者をふくめ市民のみなさんと選挙のバリアフリーの意義を確認し、(ア)のアンケート、(ウ)のわかりやすい選挙広報の取り組みに繋げる考えでした。

(ウ)のわかりやすい選挙広報の事業については、東京都狛江市、札幌市等で知的障害者支援団体が実施しているものであり、福島市では選挙管理委員会が製作に取り組むとのニュースもありました²。私たちも、わかりやすい選挙広報は、選挙のバリアフリーの取り組みのひとつの要素と考え、9月に実施される小牧市市会議員選挙をターゲットとして、企画しました。

(エ)の「当事者がつくる」障害特性別投票支援マニュアル作成の事業こそが、当事者団体が取り組む意義のあるところと考えて企画しました。

(オ)の事業報告書の作成は、この選挙のバリアフリーの取り組みは、東京都狛江市の例をみても毎年毎年積み重ねていかねばならないものですので、何をやれて何ができ

² 知的障害者にわかりやすい選挙の広報誌製作へ 福島市選管 | NHK 福島県のニュース (<https://www3.nhk.or.jp/lnews/fukushima/20230526/6050022762.html>)

なかったかの記録をし、当事者や支援者の仲間を増やしていくツールとしても必要と考えました。

5つの事業は、盛りだくさんですが、それぞれにつながっているものとして、単一年度で頑張るものとして考えました。

(2) 交付決定通知書では、申請した事業内容のなかで、(ウ)の**わかりやすい選挙広報の取り組み**(予算額11,260円)については、助成金対象外とされました(資料2)。また、小牧市市民活動促進委員会からの提言書には、この事業については自主事業として行うよう提言がありました(資料3)。

いずれにもその理由は明記されていませんが、公開審査会での委員の質問から推察するに、政治活動にあたらぬか、特定の候補者に利することにならないようにすることができるのかという点を懸念され、自主事業として実施するのは差し支えないが公費を支出するのは適当でないと判断されたものと思われます。

先行実施されている団体から、①公示前に、②立候補予定者の、③政治信条をとりまとめるという実施の要件を聞いていました。予定していた小牧市市議会議員選挙では、間際まで立候補予定者が決まらない地域の情報などがあり公示前の準備期間内での立候補予定者の把握が困難であったことから、当時、年内と言われていた衆議院解散に伴う衆議院選挙において実施することとし、市議会議員選挙での実施は見送りました(今年度は結局、解散がなく結果として未実施)。

その後の意見交換の場では、知的障害のある人だけでなく、視覚障害のある人たちも誰に投票すべきかを判断するための事前情報が入手しにくいという意見があり、「わかりやすい選挙広報の取り組み」は必要な事業と考えており、今後さらに検討をして行きたいと考えています。

選挙のバリアフリー推進事業 活動計画書

1 当事者（家族含む）アンケート調査の実施（8月から10月）

(1) 目的

障害のある人の投票行動の実情を把握し、投票行動におけるバリアなど、選挙のバリアフリーを推進するための課題を把握し、当事者がつくる障害特性別投票支援マニュアル作成の資料とする。

(2) 調査対象者

障害のある人及びその家族

(3) 調査方法

小牧市障害者団体連絡会所属団体その他の団体及び障害者関係事業所に協力依頼をし手渡しでの依頼をし、郵送（返送）による回答とする。

(4) 回収目標数

200通（1000通配付。配布数2割の回収を想定）

参考 令和2年4月現在、障害者手帳交付数 身体障害者 4,412 知的障害者 1,170 精神障害者 1,262 合計 6,844、障害福祉サービス支給決定数 1,047（出所：第6期障がい者福祉計画概要版）

(5) 費用（78,700円）

- ①アンケート用紙 A4 裏表 4枚×1000=4,000枚 A4 1箱（5000枚：500枚入×10冊）=3,990円アスクル
- ②クリックポスト発送用箱（100箱1セット）=4,530円ダンボールワン、返信用長3封筒1セット（500枚：100枚入×5袋入り）×2=6,880円アスクル
- ③返信用郵送料（基本料金84円+受取人払手数料20円）×200=20,800円
- ④発送作業人件費 4H×1,000円×3人=12,000円
- ⑤アンケート郵送料 100箇所（障害者団体40、事業所60（WAMネットで小牧市内の日中活動系サービス、施設系サービス、居住系サービス、訓練系・就労系サービスを検索））×@185円=18,500円
- ⑥アンケート入力・結果取りまとめ 6H×1,000円×2日=12,000円

2 講演会「選挙のバリアフリーについて」（8月）

（1）目的

東京都狛江市など先進地域のわかりやすい選挙広報の取り組み等を通じて、選挙のバリアフリーの意義を啓発すると共に、選挙の投票におけるバリアは、投票所までのバリア、投票所でのバリア、選挙情報のバリアの3つがあるといわれるが、そのうちの選挙情報のバリアについて、有識者の講演により学ぶ。また、意見交換会では、当事者の立場から困っていること、望むことについて意見交換し、当事者がつくる障害特性別投票支援マニュアルにつなげていく。

（2）内容

第一部 講演会「選挙のバリアフリーとわかりやすい選挙情報」（仮題）

講師（予定） 京都産業大学 准教授 堀川諭さん（情報保障論）

第二部 意見交換会

テーマ 「選挙のバリアフリーに向けて～私たちが困っていること」（仮）

（3）費用（94,940円）

①告知チラシ 4000部 8,340円プリントパック

（配布先 民生委員、障害者団体、障害福祉事業所、市議員、公共施設等）

②通信「選挙のバリアフリー特集①」印刷代 1,000部×4円=4,000円

選挙のバリアフリーの取り組みについて、チラシよりも詳細に記載し主旨を理解してもらおうようにする。

③チラシ郵送代 クリックポスト 185円×100箇所=18,500円

④発送作業代 4H×1,000円×3人=12,000円

⑤講師謝金 30,000円（講演・パネルトークあわせて3時間）

⑥講師交通費 5,740円×2（往復）京都～小牧を想定

⑦講師昼食御茶代 1,620円

⑧機材操作要員 6H×1,500円×1人=9,000円

3 わかりやすい選挙広報の取り組み（9月）

（1）目的

行政が提供する選挙情報は必ずしも、いろいろな障害特性を持つひとに十分に届いていると言えない。このため、東京都狛江市や札幌市などでは、知的障害のある人にもわ

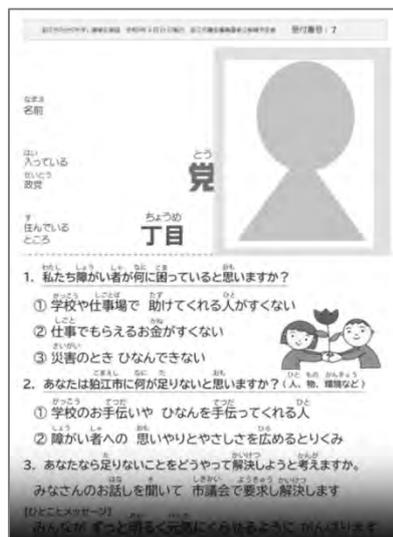
かりやすい選挙情報の提供に取り組むことで、選挙情報のバリア解消に向けた試みが進められており、本市でも同様の取り組みを行う。

(2) 内容

東京都狛江市や札幌市の取り組みを参考に、告示前に、「わかりやすい選挙情報」として、小牧市議会議員選挙立候補予定者に働きかけて、その政治信条をとりまとめ、当会の会報に掲載すると共に、スライドショーにしてホームページ上で公開する（選挙期間中は公開しない）。

(3) 費用（11,260円）

- ① 依頼文書郵送料 4年前の立候補者数34人→40人を想定
94円×40通=3,760円
- ② 人件費 ビデオ編集、YouTube処理 5H×1,500円×1人=7,500円



4 当事者がつくる障害特性別投票支援マニュアル（11月～2月）

(1) 目的

NHKの全国自治体アンケートによれば、78%の自治体が障害者対応マニュアルを作成する予定がないとしている。アンケート調査をふまえて、検討会を通じて当事者から提案する投票支援マニュアルの案を作成する。

(2) 障害種別 ①視覚障害、②ろう、③難聴・中途失聴、④知的障害、⑤発達障害、⑥精神障害、⑦重度重複障害を想定

(3) 検討方法

- ① 2回検討会を開催する。
- ② 1回目の検討は、障害種別ごとにテーブルでグループワークをする。アンケートをもとにバリアとその課題解決案提示。
- ③ 2回目の検討は、1回目の検討を基に冊子に取りまとめたもの、及び共通部分について行う。
- ④ まとめあげた提案書に法的課題がないか、識者にチェックを依頼する。

(4) 費用 (6, 290円)

①グループワーク用文具 2,200円

②検討用提案書作成 共通部分9ページ+各障害3ページ×7種別 計30ページ×
30冊 4,090円プリントパック

4 報告書作成 (2月～3月)

(1) 目的

選挙のバリアフリーは、単年度の取り組みでは達成できず、また近隣地域のみなさんを巻き込んでいく取り組みも必要であり、今年度の小牧市での取り組みを引き継ぎ、伝えていくために報告書を作成する。

(2) 内容

①アンケート結果 10ページ

②わかりやすい広報実施結果 4ページ

③当事者がつくる障害特性別投票支援マニュアル 30ページ

(3) 費用 (45, 700円)

①50ページ無線とじモノクロ 120冊 15,200円

配布先 行政、図書館、協力いただいた団体、事業所等

②通信「選挙のバリアフリー特集版②」1,000部×4円=4,000円

③送料 ①, ②同梱クリックポスト185円×100箇所=18,500円

④発送作業代 4H×1,000円×2人=8,000円

5 その他

(1) メール、インターネットになれない方用のコミュニケーションツールとしてファックスを用意する。イベント参加申込等に活用する。

(2) 費用 (10, 890円)

①インターネットFAX賃借料 1,089円×10か月=10,890円

小牧市市民活動助成金交付決定通知書

5小支第569-3号
令和5年6月13日

小牧市障害者団体連絡会
共同代表 山中 和彦 様

小牧市長 山下 史守朗



令和5年5月1日付けで申請のありました助成金の交付については、下記のとおり決定したので、小牧市市民活動助成金交付要綱第8条第2項の規定により通知します。

記

- 1 助成金の額
金189,216円
- 2 助成対象活動の目的及び内容
障害の有無に関わらず誰もが選挙権を行使できるよう選挙のバリアフリーを推進する
- 3 交付条件
 - (1) 市費補助金等の予算執行に関する規則第6条及び第10条に規定する事項を遵守すること（別紙参照）。
 - (2) 申請の取り下げをしようとする者は、小牧市市民活動助成金交付決定通知書を受け取った日から起算して15日以内にその旨を記載した書面を提出すること。
 - (3) 「わかりやすい選挙広報の取り組み」については助成金対象外とし、その他の事業の遂行にあたっては、小牧市市民活動促進委員会からの提言内容を尊重するよう努めること。

令和5年6月13日

小牧市障害者団体連絡会
共同代表 山中 和彦 様

小牧市市民活動促進委員会
委員長 秦野 利基

貴団体から申請のありました市民活動助成金交付申請活動について、市民活動促進委員会で審査した結果、今後の活動展開を期待し、下記のとおり提言いたします。

記

1 助成金を申請する目的及び内容

障害の有無に関わらず誰もが選挙権を行使できるよう選挙のバリアフリーを推進する。

2 今後の事業展開における提言

事業の意義は評価しますが、「わかりやすい選挙広報の取り組み」については自主事業で実施していただくのがよいと考えます。

小牧市の選挙管理委員会と丁寧に対話しながら投票行動につながるよう進め、今回の事業の成果をもとに、選挙のバリアフリーに向けて今後協働して展開できることを期待します。

3 提言に対する措置

今年度の事業完了後、本提言に対してどのような措置を講じたか等について、具体的に報告できるようにしておいてください。

3 【取り組み1】講演と意見交換会「選挙のバリアフリーの取り組み」

- (1) 日時 2023年8月27日(日)午後一時30分から4時まで
- (2) 場所 小牧市総合福祉施設ふれあいセンター三階大会議室
- (3) 定員 60人 オンライン参加可
- (4) 主催 小牧市障害者団体連絡会、特定非営利活動法人で・ら・しえん
- (5) 後援 小牧市、小牧市選挙管理委員会、小牧市教育委員会
特定非営利活動法人小牧市民活動ネットワーク
- (6) 情報保障 手話通訳 小牧市手話通訳者派遣事業
UDトークによるリアルタイム字幕

実績

(1) 参加者数 現地23人、オンライン22人

(2) 参加者アンケートから

【第1部】 講演会

○実際に小牧市においては、従来通りの選挙広報になっており、こうした議論はほとんどされていないことから、しっかりと取り組んでいきたい。

○障がい者の投票行動に、こんなにもボランティアが働きかけなければいけないのか、と驚きました。本来、行政がやらなければいけない仕事なのに、マイノリティはいつも、いないことにされてしまう。いないことになっているから行政はやらない！ それではいけないと思う。

○知的障害のある方が分かりやすいということはみんなが分かりやすいということ。

○選挙に限らず、知的障害児者への情報提供のあり方を（家族、支援者も含め）社会全体で見直し、当事者の意思決定の支援をしていきたい。また、そのためにも当事者の社会参加を進めて、当事者や家族、支援者の要望を伝え続けていきたい。

○政治が身近に感じるよういかに分かりやすい言葉で伝えるかを理解できた。
政治思想よりも本人の考えも立候補するうえでは重要であることを理解できた。

○狛江市の取り組みは、市幹部の「現実的に成年被後見人や知的障害のある人が投票できるのか」という視点で始まって、専門家の助言を受け当事者の聞き取り調査を行いながら地道に進めてこられたことがわかり感心した。

○選挙に参加することは、その前提として民主主義的な経験（職場で意見を出し合う、学級委員の選挙など）の経験がないと理解が難しいとの説明が印象に残りました。こどものころからこのよう経験ができることが重要だと感じました。

○障害を問わず、わかりやすい選挙は必要だと思う。公報は、難しい言葉ができるだけ省き、理解しやすい内容にしたり、拡大文字版や点字版、音訳版CDの配布、手話通訳版動画配信など、市町村単位での選挙では時間的制約もあるだろうが、高齢者も含めた、あらゆる人にやさしい選挙であってほしい。

[第2部] 意見交換会

○今後の活動の参考にさせていただきます。

○意見交換会の時間帯は仕事が入って聞いていなかったです。録画があれば、あとで聞かせてもらいます。

○体験を話す場や機会が少ないんだろうと感じた。代理投票についてもっと知りたいと思った。

○視覚障害の大変さ、肢体不自由や重心の方の大変さ、お聴きできてよかったです。投票のしやすさでは、名古屋市外ではショッピングモールで期日前投票も行われているので、そちらの状況もお聴きできるとよかったですと思います（昨日投票だった長久手市長選ではイオン長久手）。役所の期日前投票、前日は混みあっているのです。

○私は常に毎回投票しているが、障がい重いほどなかなか投票に行くのに躊躇してしまう現実さを持つことができた。点字の投票についてもまだまだ職

員によって対応がまちまちであること等問題が多いことを理解した。このような講演会や意見交換会ができていますので、小牧市が今後投票が投票権を持っている人が誰でもできるようにしていけたらとお感じている。

○重度知的障害者の選挙について意見交換されていて興味深かった。選挙の能力と選挙権については、当事者の親として悩ましいところ。本人が意思決定をできない場合は、本人にとって客観的に望ましいと思われる候補者を選ぶという形で投票させてやりたいと思っている。今年の投票については、NHKの「みんなの選挙」を参考にした。代理投票を希望し、予め選管に連絡したので、地区の投票場所に連絡が通してもらっており、係の方の助けを受けて投票できた。親も横で見守り声掛けさせてもらえた。ただ本人の練習不足で興奮気味だった。対応する職員によって違いがあるようなので、狛江市のようにマニュアルや研修をしていただけると安心。

○障害のある方、ご家族のご意見は、皆さんどの方の発言も重たいものでした。白票を投じることも、投票所にいる選挙委員会の方に、考えていただくチャンスで意味のあるものだと話されていたことが印象に残りました。選挙に携わったことの有る者として、配慮が不足していたことは、指摘されて初めて分かることばかりでしたので、当事者の皆さん、ご家族の皆さんの発信がいただけるとより良い選挙になると思いました。

○期日前を含め、各投票所での対応がまちまちであるのはおかしいし、有権者がどのようなことを不便に感じているか、また何を不自由に感じているか、各選管で把握する努力をしてほしい。

[今回のイベントや小牧市障害者団体連絡会、で・ら・しえんへの要望、意見]

○お力になれる事があればなんなりとご連絡下さい！

○私は春日井市民ですが、春日井でもこのようなイベントはあるのでしょうか？ 周辺自治体との連携はどうなっていますか？

○どのようにマニュアルが作成されていくのか、大変かと思いますが、期待しています。

○選挙も含めた、障がい児者への情報提供のあり方を変えていけるといいと思います。わからないから・・・ではなく、わかるように伝えること。意思を表出できるようにすること、当事者の想いを交流し合い、行政に伝える場づくり等、皆さんと一緒に考えていきたいです。

○狛江市の取り組みを聴き、小牧市でもいずればぜひ取り組んでいただきたいと思います。このような講演会ができていますので、今後とも続けてほしいです。

○とてもよかったです。

○今後の活動に期待しています。

○こういった event こそ、市の関係者の積極的な参加を望みたい。

【本取り組みの評価等】

○周知の方法として、市の広報及び LINE、中日新聞等さまざまな媒体に依頼したが、6月13日の交付決定以降のチラシ製作となり、周知期間が短かったせい、参加者を十分に集めることができなかった。

○選挙日程等の都合がありやむを得なかったが、十分な準備期間が必要であった。

○アンケートに書かれた感想にもあるように、講演会ではこの課題に取り組む意義の確認ができ、意見交換会では当事者の意見を共有できた。

○市議会議員の参加もあり、選ばれる立場の方に、この課題について認識を深めていただいたものと考えている。

8月27日講演会資料（抜粋）

選挙のバリアフリーと
わかりやすい選挙情報

2023年8月27日
京都産業大学 堀川 諭



障害者の投票率“障害が重いほど低い傾向”
全国初の調査結果
（NHKライブより）

【2023統一地方選】

狛江市全体の投票率：50.7%
障害ある人の投票率：46.9%

〈障害者手帳を1つだけ持つ人の
障害別の内訳〉

- ・精神障害がある人：50.4%
- ・身体障害がある人：47.5%
- ・知的障害がある人：37.7%

肢体不自由、知的、精神
障害が等級が高くなる（重くなる）ほど投票率下がる傾向

【きょうの議の流れ】

- ①投票に参加できる人とは
 - ・有資格者、「政治的成熟度」「市民性」なるもの
 - ・「インクルーシブ社会」との整合性
- ②投票参加と分かりやすさの関係
 - ・選挙公報やメディアの選挙報道などに絡んで
- ③東京都狛江市の投票支援
 - ・知的障害者向け支援がみんなにとっての分かりやすさに
 - ・「ふたつのバリアフリー」
 - ・分かりやすい演説会、分かりやすい選挙広報誌、政見動画…
- ④当事者や親の声が届くこと
 - ・軽度知的障害者が望む分かりやすさ
 - ・「投票能力」意識の危うさ

①投票に参加できる人とは

〈選挙権〉
日本国民で18歳以上であること

〈権利を失う条件〉

- ・禁錮以上の刑に処せられその執行を終るまでの者
- ・禁錮以上の刑に処せられその執行を受けることがなくなるまでの者（刑の執行猶予中の者を除く）
- ・公職にある間に犯した収賄罪により刑に処せられ、実刑期間経過後5年間を経過しない者。または刑の執行猶予中の者
- ・選挙に関する犯罪で禁錮以上の刑に処せられ、その刑の執行猶予中の者
- ・公職選挙法等に定める選挙に関する犯罪により、選挙権、被選挙権が停止されている者
- ・政治資金規正法に定める犯罪により選挙権、被選挙権が停止されている者（総務省HPより）

◇成年後見人の選挙権回復（2013年の公選法一部改正）

契機となった東京地裁の違憲判決←成年後見制度の借用を問題視

「事理を弁識する能力を欠く者に選挙権を付与しないとするは立法目的として合理性を欠くものとは言えない」との指摘も

✓投票に付きまとう「能力」の問題にどう対処するか

- ・積極的能動的な政治参加としての選挙という位置づけ（法的観点）
- ・過去の選挙権年齢引き下げ議論で出た「政治的成熟度」の考え方
- ・「市民性」「社会形成力」を重んじる主権者教育の理想
- ・理性的で合理的判断力をもつ個人モデルを前提とする政治哲学

その一方で…

◇障害者権利条約第29条

「障害者に対して政治的権利を保障し、及び他の者との平等を基礎としてこの権利を享受する機会を保障する」

◇障害者基本法第28条

「国及び地方公共団体は、法律又は条例の定めるところにより行われる選挙、国民審査又は投票において、障害者が出陣に投票できるようにするため、投票所の施設又は設備の整備その他必要な施策を講じなければならない」

◇国連持続可能な開発サミットの成果文書（SDGs、2015年）

（取り組むべき課題）我々は、2030年までに以下のことを行うことを決意する。あらゆる貧困と飢餓に終止符を引くこと。国内的・国際的な不平等と戦うこと。平和で、公正かつ包摂的な社会をうち立てること。人権を保護しジェンダー平等と女性・子供の能力強化を進めること…この偉大な共同の旅に乗り出すにあたり、我々は誰も取り残されないことを誓う。

※投票能力の問題とインクルーシブ社会という目標の整合性をどうとるか

2023年度小牧市市民活動助成金交付事業

選挙の バリアフリーの 取り組み



障害のある人にとって、選挙のバリアは、投票所までのバリア、投票所でのバリア、選挙情報のバリアの3つがあると言われています。そのうちの情報のバリアについて学び、具体的にどのようなことで困っているのか意見を交換し、理解を深める機会とします。

《プログラム》

第1部 講演 「選挙のバリアフリーとわかりやすい選挙情報」

講師 京都産業大学 准教授 堀川諭さん

1977年富山県生まれ。早稲田大学卒業。時事通信記者などを経て京都産業大に着任。博士（学術、立命館大）。専門は情報保障論。地域や世代間、障害の有無などによって生じる情報の格差をどのように小さくしていけるかをテーマに研究しています。



第2部 意見交換会 「選挙のバリアフリーに向けて～私たちが困っていること」
進行 小牧市障害者団体連絡会 共同代表 山中和彦

日時 **2023年8月27日(日)**午後1時30分～4時まで

場所 小牧市総合福祉施設ふれあいセンター3階大会議室（小牧市小牧五丁目407番地）

定員 60名 ※オンラインによる参加も可能。

対象 障害のある人、障害のある人の家族、支援者ほかどなたでも

申込方法 FAXまたはホームページから 8月20日(日)締切

参加費無料 手話通訳・UDトークあります

申込方法は、裏面をご覧ください。

共催 小牧市障害者団体連絡会 / 特定非営利活動法人で・ら・しえん

後援 小牧市 小牧市選挙管理委員会 小牧市教育委員会

特定非営利活動法人こまき市民活動ネットワーク

スマートフォンのアプリ（Uni-voice）をダウンロードしてこのチラシの内容を音声で聞くことができます。



バリアフリーの取り組み

ホームページまたはFAXでお申込み 8月20日(日)締切

<http://komaki-sdr.sakura.ne.jp>

による参加の方は、メールアドレスの確認のため、ホームページからください。（メニューから「選挙のバリアフリー」を選択）

145-3224

印刷に記入してお申込みください。



申込フォーム

参加申込票

1 参加方法	ア 現地	イ オンライン
2 氏名(ふりがな)	()	
3 連絡先(電話番号)	()	
4 連絡先(メール)	()	
5 お住まい	ア 小牧市	イ その他()
6 区分	ア 障害当事者	イ その他()
7 障害のために必要な配慮	イ その他()	ウ 支援者
	エ その他()	

小牧市障害者団体連絡会+で・ら・しえんの選挙のバリアフリーの取り組み

令和5年度小牧市市民活動助成金つなげる部門交付事業(※印の事業をのぞく)

時期	取組内容
2023年8月	選挙のバリアフリーについてのアンケート調査(当事者、家族向け) 障害のある人が選挙でどのように困っているのかを調査します。
2023年8月27日	講演会と意見交換会「選挙のバリアフリーの取り組み」(本チラシの事業)
2023年9月	知的障害のある人に「わかりやすい選挙のお知らせ」(市議会議員選挙立候補予定者の政治信条をのり、会報の特別号として発行)※市民活動助成金対象外(自主事業)
2023年9月24日	<小牧市市議会議員選挙告示>
2023年10月1日	<小牧市市議会議員選挙投票日>
2023年11月	アンケートとりまとめ完了
2023年12月	障害者特別投票支援マニュアル検討会① 当事者がつくる障害者特別投票支援マニュアルの取組みとして、アンケート結果をふまえて、当事者、支援者が提案する障害者特別投票支援マニュアルを作成します。 多くの方の意見を盛り込んで作成したいので、どなたでも御参加ください。
2024年1月	障害者特別投票支援マニュアル検討会②
2024年2月	当事者がつくる障害者特別投票支援マニュアル完成
2024年3月	選挙のバリアフリー推進事業報告書の作成 アンケート結果をはじめ障害者特別投票支援マニュアルなど、今年度の取組み過程をとりまとめた報告書を作成し、みなさんと共有します。

【問合せ先】小牧市障害者団体連絡会

メール mail@komaki-sdr.sakura.ne.jp ホームページ <http://komaki-sdr.sakura.ne.jp>

4 【取り組み2】障害のある人の選挙のバリアフリーアンケート

障害特性別投票支援マニュアルを作成するための材料を把握するために、障害のある人（もしくは親など支援者）に対してアンケートを実施しました。

1000通送付して2割回収が目標でしたが、結果として139通の回収でした。

その集計結果は、資料に示すとおりですが、選挙に行きたいかという質問に対する答えだけでも障害種別により違いがみられます。

このアンケート結果は、ホームページに掲載するとともに、11月26日開催のワークショップにて報告しました。

(参考)

私たちがアンケートを実施した後、集会に参加された方からNPO あいち障害者センターが同様に2023年3月を実施されていることを教えていただいた。

私たちは、シンプルな問いかけのアンケートとしましたが、このアンケートはより詳細の問いかけがあり、その結果報告書には障害のある人向けに提言もあり、私たちの今後の活動に参考となるものです。

<https://npo-asc.jp/wp->

[content/uploads/2023/03/6f2da78db5c73eb5b5edea4b58242372.pdf](https://npo-asc.jp/wp-content/uploads/2023/03/6f2da78db5c73eb5b5edea4b58242372.pdf)



障害のある人の選挙のバリアフリーアンケート結果のまとめ

1 実施時期

2023年9月～10月

2 実施方法

アンケートを障害者団体、障害福祉事業所に送付またはスタッフ（当該事業所利用者）から手渡し（1000通）

3 回収方法

オンラインによる回答

受取人料金払郵便により郵送回答

スタッフによる手渡し回収

合計139通

4 お問い合わせ先

小牧市障害者団体連絡会

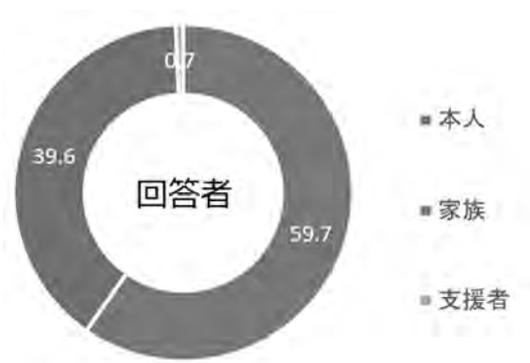
ホームページ <https://komaki-sdr.sakura.ne.jp/wp/>

電子メール mail@komaki-sdr.sakura.ne.jp

ファックス 050-3145-3224

1 回答者

本人 83人 家族 55人 支援者 1人 合計139人



家族55人のうち、51人は知的障害のある人の家族です。

2 障害種別

障害種別	人数
知的障害	45
精神障害	22
視覚障害;	18
聴覚障害	12
知的障害;体幹障害	7
下肢障害;	3
知的障害;精神障害	3
上肢障害;下肢障害;知的障害;	2
上肢障害;下肢障害;体幹障害;知的障害;	2
下肢障害;精神障害;	2
知的障害;内部障害	2
言語障害;上肢障害;下肢障害;	2
聴覚障害;知的障害;	1
聴覚障害;言語障害;知的障害;	1
聴覚障害;内部障害;	1
上肢障害;精神障害;	1
上肢障害;言語障害;下肢障害;体幹障害;知的障害;	1

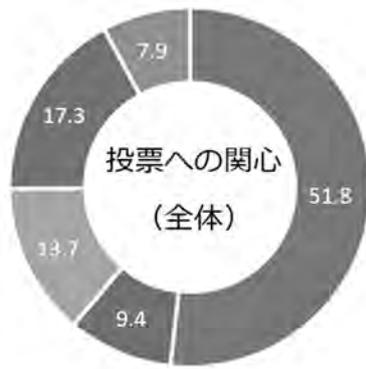
上肢障害;下肢障害;知的障害;体幹障害;	1
内部障害;精神障害	1
内部障害;	1
体幹障害	1
精神障害;体幹障害	1
上肢障害;下肢障害;	1
視覚障害;知的障害;	1
視覚障害;言語障害;	1
言語障害;体幹障害;	1
言語障害;上肢障害;下肢障害;体幹障害;	1
下肢障害;知的障害;	1
下肢障害;体幹障害;	1
無回答	2
合計	139

傾向を大きくつかむため、人数から、知的障害、精神障害、視覚障害、聴覚障害、その他の身体障害にわけ、それぞれ重複障害の場合もカウントし、集計することとした。

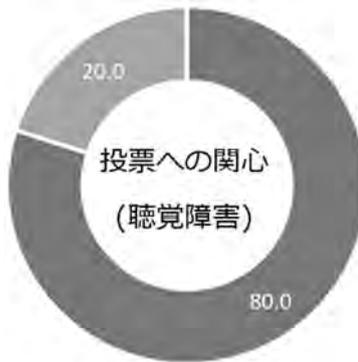
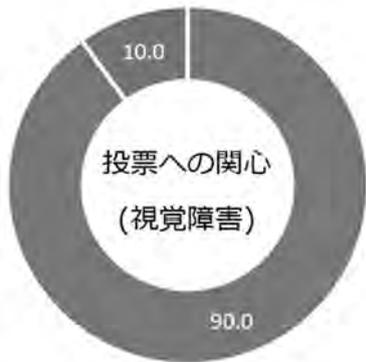
障害種別	人数
視覚障害	20
聴覚障害	15
その他の身体障害	35
知的障害	67
精神障害	30
のべ数	167

質問3（投票への関心）選挙があるときは、投票に行きたいですか。

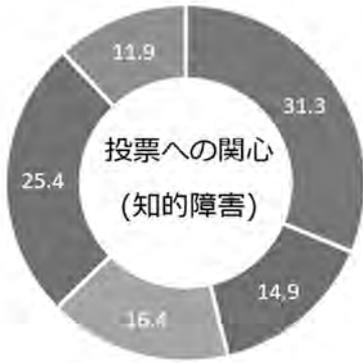
	全体	視覚障害	聴覚障害	他の身体障害	知的障害	精神障害	重複あり
行きたい（行けるときは行く）	72	18	12	17	21	14	82
行きたいが行けない	13	0	0	5	10	3	18
どっちでもいい（関心ない）	19	0	3	5	11	5	24
行きたいとは思わない	24	2	0	6	17	6	31
無回答	11	0	0	2	8	2	12
合計	139	20	15	35	67	30	167



- 行きたい(行けるときは行っている)
- 行きたいが行けない
- どっちでもいい(関心ない)
- 行きたいとは思わない
- 無回答



※視覚障害、聴覚障害以外の身体障害

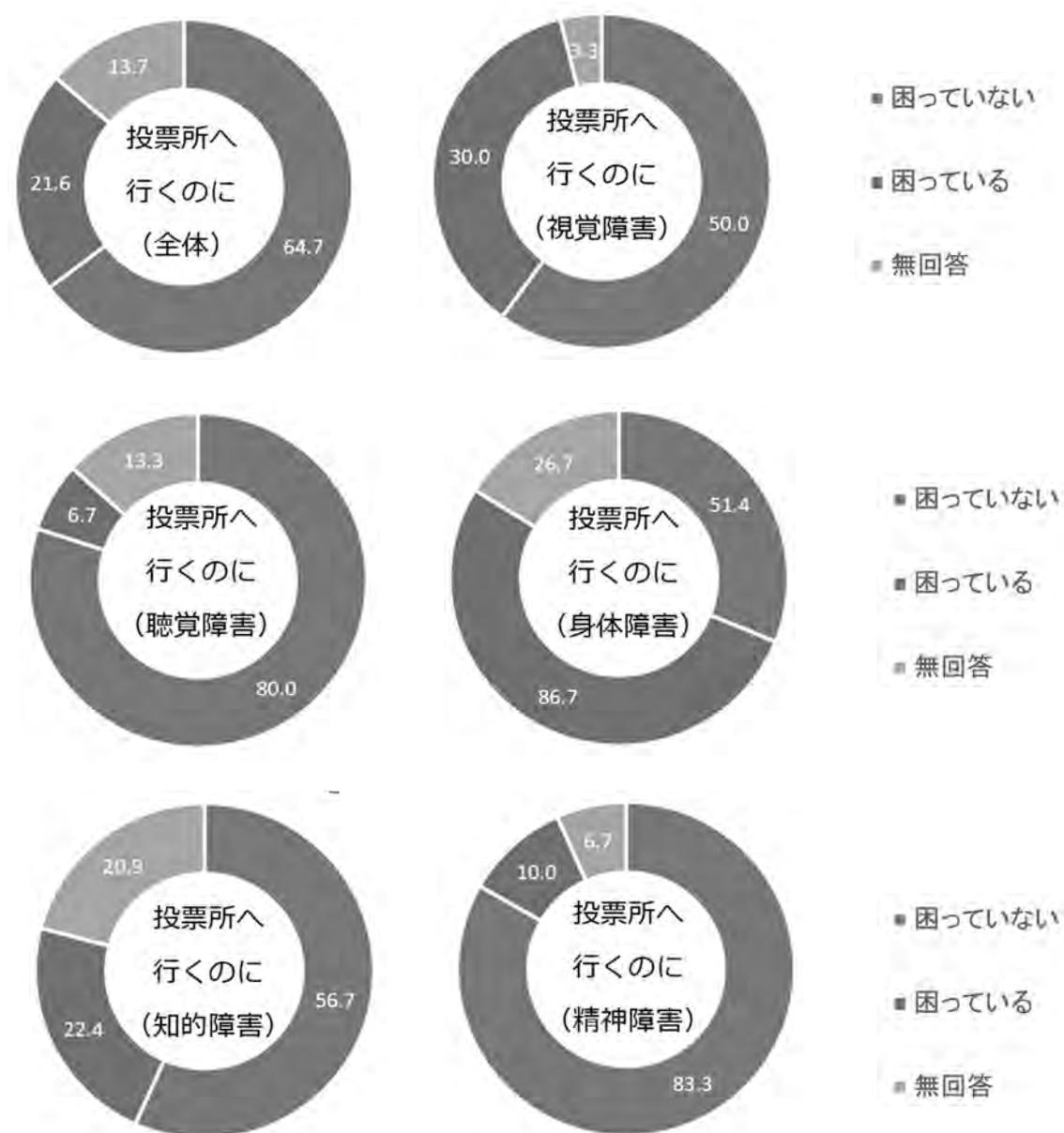


- 行きたい(行けるときは行っている)
- 行きたいが行けない
- どっちでもいい(関心ない)
- 行きたいとは思わない
- 無回答

質問4 投票所に行くのに困っていますか。

【投票所までのバリア（困ること）】

	全体	視覚障害	聴覚障害	他の身体障害	知的障害	精神障害
困っていない	90	10	12	18	38	25
困っている	30	9	1	13	15	3
無記入	19	1	2	4	14	2
合計	139	20	15	35	67	30



質問4-1 投票所に行くのに困っている人に聞きます。その理由はなんですか。

【視覚障害】

- 目が不自由なので、一人で投票所へ行けない。
- 視覚障がい者なので期日前投票を選んでいる。人が多いとぶつかりやすく動きにくいので。
- 歩いていける場所に投票所がないので誰かに車でつれていってもらわないといけないから。そもそも一人歩きができない。
- 視覚障害に限った話ではないが、障害者への対応ができるスタッフが常駐しているかどうか分からない場所では安心して投票はできないため、スタッフが常駐しているであろう区役所などへ期日前投票をしに行った方がまだ安心できるからです
- 視覚障害のため、行きなれていない学校に行くのが難しい。
- 期日がい投票に行くことが多いが、不便な場所にあり、今は家族の送迎が頼りであるが、家族が送迎できなくなったら、不在者投票へ行くのは難しくなると思っている
- 場所によって音声信号が少ないため危ないときがある
- 目が不自由なので、投票所までの距離が遠いと徒歩で行くのは難しい。

【身体障害】

- 会場で靴からスリッパに履き替えて行かなければいけないこと。
- 障害のため
- バリアフリーの場所なので行きやすい
- 雨が降るといけない
- 入り口が狭い
- 足が不自由なので出歩くのが大変。
- 投票所が遠くなって（図書館から小牧小学校に変更）、歩行困難につき巡回バスを利用しなければならない。【聴覚障害重複】

【知的障害】

- 同じような投票は出来ない
- 選挙の意味がわからない

- 知的障害、自閉症なので、慣れない場所、環境などで落ち着かない
- 理解しているが離せなく字はゆっくりしか書けなく、時間がかかり親か分からない
親の付き添いが必要（ママ）
- 政治についてはわからないため
- 知的しょうがいだからばしょがわからない
- ひとりで行くことが難しいので家族や施設の職員に連れて行ってもらっている。
- 今は家族が比較的すいている時間の投票所に連れて行っているが家族が行けなくなった時は困難
- 行くと投票するときまようから
- 親自身が車がないので不便であり、以前より投票所が遠くなっているのでバスの便もあまりよくありません。
- 親の立場からの意見です。高齢のため発作のある子を連れて歩くのも負担を感じます。
- バリアフリーではない
- 重度知的障害なので理解できない
- 近所の神社ですが男性のかたが 4 人で手伝ってくださいますのでとても助かります。

【精神障害】

- 就労支援所に開設して仕事帰りに投票できるようにしてほしい。
- 引っ越したばかりでどこに投票所があるかわからない

質問4-2 どのように変わればよいですか。

【視覚障害】

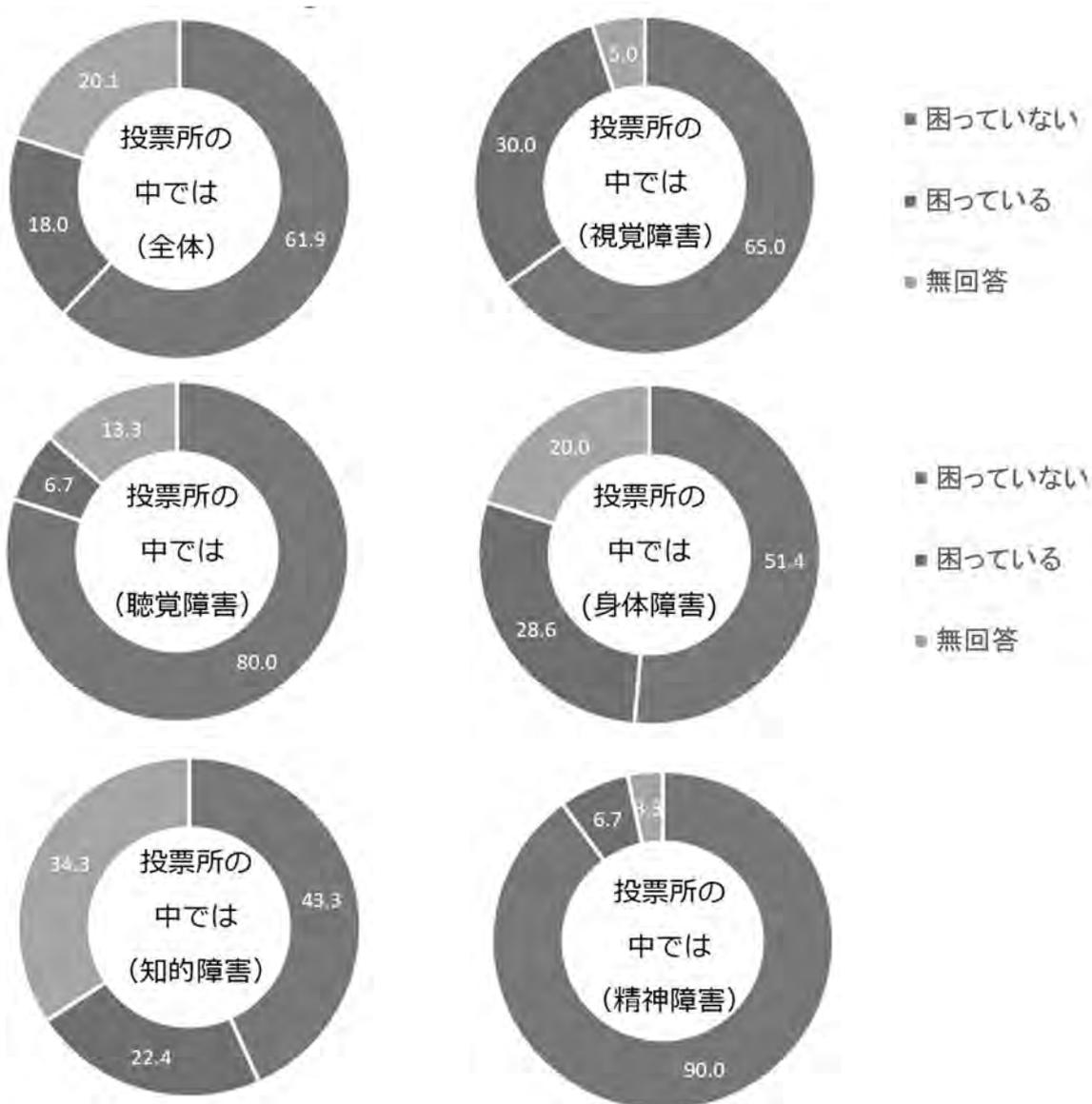
- 地下鉄駅に投票所を開設してほしい。
- ヘルパーさんと行動している場所で投票できるとよい。または、職場などで。献血カーのように。
- 電話で投票できるとか自宅にいても投票できるといいかな。ネットは使えない人もいるからもしおこなうなら万全のサポート体制がほしい。つきっきりで面倒みてくれるとか。

- 障害者に対応できるスタッフが常駐していることが前提ですが、常駐していて安心して投票ができるという情報を発信してほしい。それこそ選挙期間にはニュース番組などで「どの投票所でも安心して障害者も投票できること」や「実際にどんな対応をしてもらえるか」や「リポーターが目隠しや耳栓や車いす状態で投票してみる」などなど取り組みをどんどん発信することが重要ではないかと思います
- 現状の最寄りの学校の他、当日は区役所や市役所などの公共施設での投票を行ってほしい。また、マイナンバーカードを利用してウェブやスマホから投票できる仕組みを考えてほしい。
- Web 解答できるようになるととてもありがたい
- 音声信号を増やしてほしい
- 自宅近くのスーパーなど徒歩で行ける範囲内に投票所を開設してほしい。

質問5 投票所のなかで困っていることがありますか。

【投票所の中でのバリア（困ること）】

	全体	視覚 障害	聴覚 障害	他の身 体障害	知的 障害	精神 障害
困っていない	86	13	12	18	29	27
困っている	25	6	1	10	15	2
無記入	28	1	2	7	23	1
合計	139	20	15	35	67	30



質問5-1 投票所のなかで困っている人に聞きます。その理由はなんですか。

【視覚障害】

- 視覚障がい者ですが弱視なので、自分のやりたい方法で投票ができない。
- なぜ、「そのように希望するのか？」理解をしてもらいにくい。”
- だいひつ、投票箱のいちがわからないのでガイドしては最高
- 点字投票を知らないスタッフがいてこっちが説明しないといけない。そもそも点字器おいてない投票所もある。そのため投票に時間がかかるので人の少ない平日の期日前投票にいつている。
- 人やで行く場合、会場に入ってからどこに行けば良いか、紙のどこに記入をすればいいかなと、みづらくて困ることが多い。
- 視覚障害があり物が見えないので、
 - 1、候補者名を忘れてしまった時に確認しづらい。
点字で一覧表がある場合もあるが、どこに置いてあるかまでを先に説明されたことはない。
 2. 投票用紙の表裏や上下を説明されたことがない。
点字は表裏や上下が逆だと全く違う文字になるので、逆の面や逆さ向きに書いて無効票になるのだとしたら、そもそも投票に行った意味がなくなる
 - 3、「やめさせたい裁判官の名前を書いてください」という投票？がある時、一般人は裁判官の名前に○をつけたりチェックマークを書き込む欄のある用紙を渡されるが、視覚障害者の場合は白紙の点字用紙を渡されて「裁判官の名前を書いて」と言われる。
目の見えていた時でもこの投票は事前情報の少ないイメージがあるが、裁判官の名前まで把握して投票に来る人はいるのだろうか？”
- 候補者名などの掲示が見えづらい。また、指定の筆記具が鉛筆で、文字が薄く薄い
ため、視覚障がいの自分には見えづらいため、書きづらい。”

【聴覚障害】

- 問われたように思うが、何を問われたかがわからない。

【身体障害】

- 車椅子なので混んでいると、動きづらい
- 中が狭くてたくさんの人が見えたときに迷惑かなと感じてしまう
- 投票箱に入れてもらえているので困っていない
- 車いすで片麻痺なので紙を抑えることができる物を考えてください

【知的障害】

- 知的障害が非常に重度なため、候補者を選ぶことができない。毎回、白紙で投票している。
- 知らない人に囲まれると、ちょっと本人がパニックになるので、できたらなるべく知っている人（家族）が近くにいてほしい（いさせて）ほしい。
- 重度知的障害でわからない。
- 選び一人だけの名前を書くのは難しい
- 一人では投票できないので代理投票を希望。投票所によって対応が違うことがあると聞くので心配。
- 雰囲気緊張する。じっと見られている。静か。怖い。雰囲気。
- 理解しているが離せなく字はゆっくりしか書けなく、時間がかかり親か分からない親の付き添いが必要（ママ）
- 指導していただくとありがたい。
- 障害者でもさらくに行けるようにしてほしい。
- 記入場所がたくさんあってどこを使っていいかわからない。
- 話したいが声が大きいから話しづらい。"
- 本人だけでは記名、投票ができないので支援が必要
- そもそも地域の投票所はバリアフリーではなく行くことができません。
- 重度知的障害なので理解できない
- 本人が投票者を選べないので無記名（白紙）投票しかできないことが悩ましい
- 一人で投票できない
- 誰に投票するか迷う

【精神障害】

- 投票箱の設置か所を増やしてほしい
- ベビーカーで行った時、少し狭く感じました

質問5-2 どのように変わればよいですか。

【視覚障害】

- 視覚障がい者でも弱視の人はサインペンなどで自分で記入することができるようにしてほしい。視覚障がい者への理解を深めてほしい。投票箱への案内は必要だが投函は自分でやりたい。広報車の名前を読み上げてもらうより、大きな文字での印刷物か端末で観れるようにしてほしい。
- 点字や代理でかいてくれるなど様々な投票方法があることを選挙スタッフに周知、実施してほしい。
- 会場に入ってから出るまで、誘導してくれる人(記入事項、記入場所も教えてくれる)が一人ついてくださると嬉しい。
- 1 (候補者名を忘れたとき)と3 (最高裁判所国民審査) に関して
候補者名や政党一覧を読み上げた音声を用意し、投票用紙を渡す際に希望者には音声を貸し出すなどをしてもらえると助かります。
2 (投票用紙の表裏や上下) に関して
表裏や上下の説明をしてもらえると助かります。
たとえば「こちら側に点が出て、こちらが上になるよう書いてください」といった感じでしょうか。表裏や上下が逆でも問題ない場合も問題ないことを説明してもらえると助かります。
3 (最高裁判所国民審査) に関して
基本的には1の例と解決策は同じで良いと思うが、これは事前情報も少ないので投票があるということすらその場で知ることが多い。"
- 大きく太い文字で候補者名等を掲示する。見えにくい人のために、筆記具にサインペンやマジックを用意してほしい。

【聴覚障害】

- 筆談など文字で問う (又は答えてもらう) と良いと思う、文字変換のアプリの利用も良いかと思う。

【身体障害】（重複あり）

- 候補者の情報をいくら解りやすくしても、そもそも目の前の物を選択することができない。なので白紙で投票する以外に方法が思い付かない。
- 係りの人が持ち運べる小型の投票箱があると助かる。ひざの上（車椅子の）にのせてもらえたら入れられる（手伝ってもらえたら）。うちの子も自分で入れてみたい。
- 家族がすぐそばで居られるのと、本人の気持ちを汲み取ってもらえるような支援者がいてくれたら助かる。
- たくさんの障がいの人が投票に参加して選挙が普通になるといい
- 広い場所で障害のある人だけの場所があっても良いかも

【知的障害】（重複あり）

- 候補者の情報をいくら解りやすくしても、そもそも目の前の物を選択することができない。なので白紙で投票する以外に方法が思い付かない。
- 顔カードや名前などのかみをおいて
- 選んで投票などがわかりやすい
- 投票所の中に家族も入れるということを周知してほしい。係の方が2人付き添ってくださるけど、本人が落ち着くために家族も手を繋ぐなどできるようにしてほしい。このことをどの投票所でも理解してほしい。
- 係りの人が投票箱を手前に持ってきてくれるとよい。
- 「何かわからないことがありますか」と声をかけて頂けないものか。
- 親が助けようとする不正をしていると見られるような気がする。
- 支援が必要な人は別のブースで投票できないものか。
- 障害を理解している人がいて欲しい
- わからない
- 親と一緒に投票またはヘルパーと一緒に投票できるとよい。
- 係りの人が持ち運べる小型の投票箱があると助かる。ひざの上（車椅子の）にのせてもらえたら入れられる（手伝ってもらえたら）。うちの子も自分で入れてみたい。
- 家族がすぐそばで居られるのと、本人の気持ちを汲み取ってもらえるような支援者がいてくれたら助かる。"
- たくさんの障がいの人が投票に参加して選挙が普通になるといい

広い場所で障害のある人だけの場所があっても良いかも

付き添いが必要

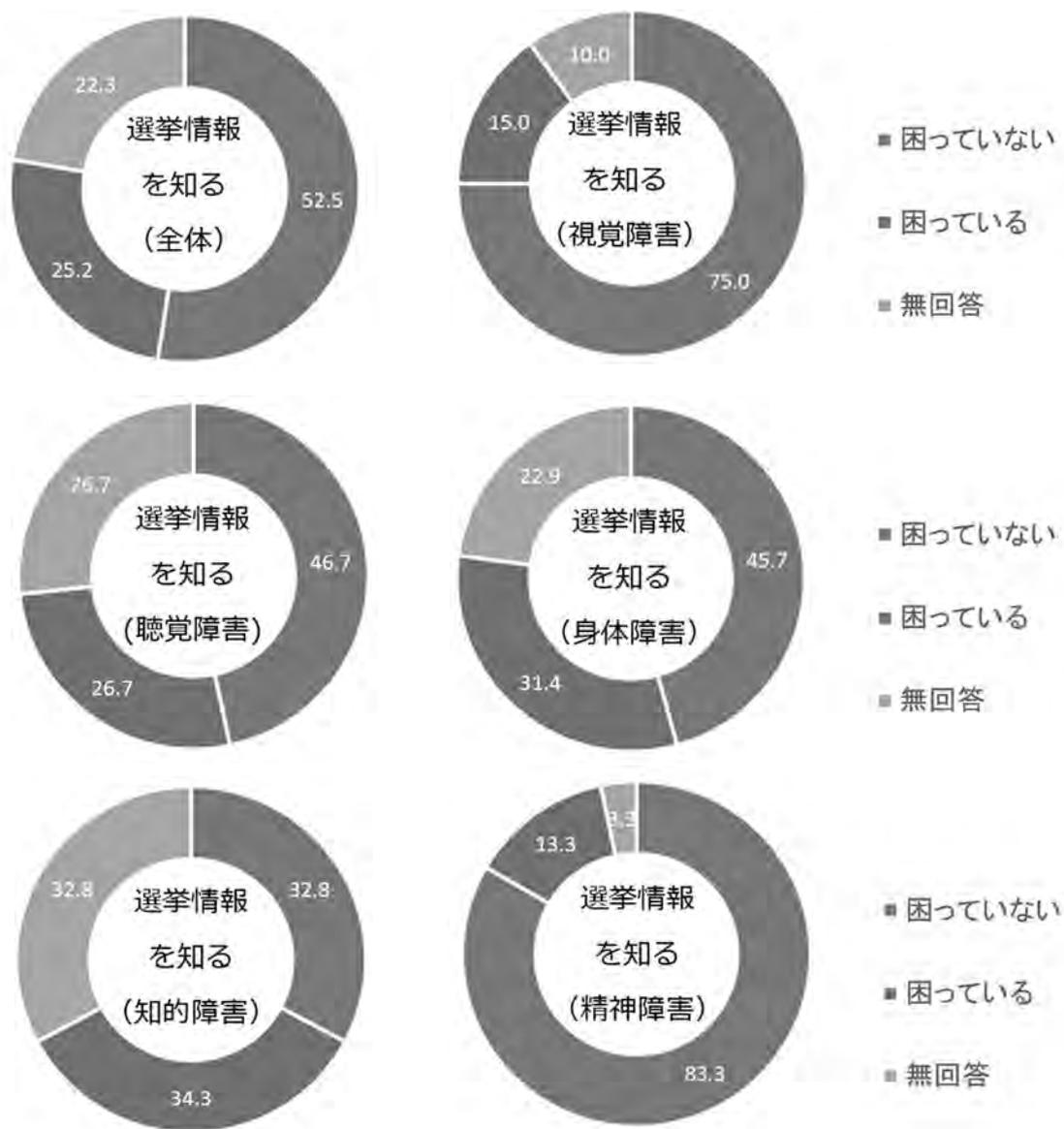
今のところ別に困っていません

【精神障害】

広さが欲しいです

質問6 選挙情報（立候補者の政策など）を知る上で困っていますか。

	全体	視覚 障害	聴覚 障害	他の身 体障害	知的 障害	精神 障害
困っていない	73	15	7	16	22	25
困っている	35	3	4	11	23	4
無記入	31	2	4	8	22	1
合計	139	20	15	35	67	30



質問6-1 選挙情報を知る上で困っている人に聞きます。その理由はなんですか。

【視覚障害】

- 印刷物では読めないので伝わらない。
- 広報誌が届くのが遅いので期日前投票をに間に合わないことが多い。
- 点字やデジの選挙のお知らせが到着するのが遅い。

【聴覚障害】

- 内容が役所的でなじめない。
- 立ち合い演説会があったとしても聞こえない。(個人演説会があるとして)

【身体障害】

- 内容が役所的でなじめない。
- 選挙広報は、漢字や難しい言葉が多くてわからない。
- 立候補者がよく分からん人ばかり。

【知的障害】

- 漢字が難しい、読めない
- 知的障害が重すぎて理解させられない。
- わかりやすい情報が得られない
- 重度の知的障害の場合は、選挙の能力はないのかもしれないけど、人権としての選挙権があると思うので、本人にとって有益な人に(親としては)投票してもらいたい。投票所に行くこと自体が社会参加しているという考え方もあるが、それだけでは選挙権を行使しているとはいえないと思う。
- 選挙公報は漢字や難しい言葉が多くてわからない。
- 内容が理解できない
- せんきょこうほうはかんじがおおいからわからない
- 選挙公報は漢字は難しい言葉が多くてわからない。
- 投票所にも選挙情報があるとありがたい。
- わかりません
- 広報を見たり聞いたりしても忘れてしまう。

- 最後まで読み切れない。
- 字は読めない。
- 選挙公報や選挙情報は難しく本人には理解できない。
- 親が「この人に投票しなさい」とは言えないので、毎回名簿の一番上の名前を書いている気がする。
- 通っている施設では立候補者の話をされることがあるようですが親がその場面に居ないので本人がどれだけ理解できているかわからない。
- 理解が難しいから、親が障がいの方に対して優しい考えの方を、また近所の方を伝えているがどこまで理解しているか定かではない。
- 公報は、いろいろ言い回しが伝わりづらい書き方をされている。「ふんわり」書いてあるので、「で、何をしてくださる方なの??」となります。
- 重度知的障害なので理解できない
- 選挙公報は、漢字は難しい言葉が多くてわからない。
- わかりやすくして欲しい大人でもわからないことがある。
- 重度知的障害でわからない。
- 理解できない
- 言葉が難しい。
- 意味がわからない。
- テレビを見ているが流れないこともある。
- 立候補者の候補が難しく理解ができない
- かんじがむずかしい。

【精神障害】

- せんきょこうほうはかんじがおおいからわからない
- 候補をわかりやすく知らせてくれる人や読み聞かせできる人が常に居て欲しい
- ろくな投票する人がいない。他のエリアなどにはいるコトが多い。
- 選挙広報は、漢字や難しい言葉が多くてわからない。
- 立候補者の政策が誰なのかよくわからない。
- 選挙広報は、漢字や難しい言葉が多くてわからない。

6-2 どのように変わればいいですか。

【視覚障害】

- 犬山市では音訳 CD で情報を受け取れると聞いた。そのようなものもあつたらよいと思うが、スマホなどで候補者の演説を見れるようにするとか、広報をテキストで掲載するなど声で伝わるようにしてほしい。
- 選挙期間が始まる頃には届くように準備してほしい。今やインターネットで候補者の情報は手に入るとはいえ広報誌が届かない選挙は選挙管理側のやる気を疑う
- 点字やデイジーによる郵送は大変ありがたく、このまま継続してほしいが、これに加えてスマホやパソコンで選挙のお知らせが閲覧できるとありがたい。点字では読むのに時間がかかったり、デイジーCD をセットするのが面倒であったりするのに対し、ウェブで確認できればこれが日常的な情報収集の1つとして確立されているため、より情報が容易に得られる。もちろん、これまでの手段に慣れている人もいるので従来の方法も残してほしい。

【聴覚障害】

- 民間の専門業者の意見を聞き取りしたらどうか。
- 選挙カーがはっきり聴き取れないのでただの騒音になる。TV の選挙情報もうまく字幕が使えないこともある。
- 文字変換アプリの使用

【身体障害】

- もっと情報をオープンにして欲しい。

【知的障害】

- 知的障害者にわかるように工夫する
- 問いには沿っていませんが、代理投票の意思を示すことや投票するためのもの（立候補者を示すものを持参するなど）あらかじめ準備しておけるとよい。これを親族などが代理で手伝うことをどの投票所でも理解してほしい。
- 知的な障害のある人にもわかりやすい公報の発行
- 知的障害者にとっては無理なことで除外してほしい。

- 字も書けない、読めないではどうすることもできない。
- 知的しょうがいのある人にもわかりやすくしてほしい
- 知的な障害のある人にもわかりやすい公報の発行
- 「知的な障害のある人にもわかりやすい広報の発行」すごくありがたいです。
- わからん
- DVD など映像したものが貸し出しであるといい。
- ユーチューブとかで立候補者の話が聞けるとよい。
- 誰にでも分かりやすい選挙情報の発信
- 本人にわかりやすい言葉で箇条書きのようにまとめてあると説明しやすいかと。
- 写真を選ぶ
- 行かなくてもスマホでできる。
- 公報を明るい感じの見やすいようにデザインしてほしい。
- 付き添いが必要一番
- 名前と顔がわかればよいのですが名前だけだと分からないみたいです。
- でも行きたいからと連れて行きます。
- みなさんには迷惑をかけると思いますがよろしくお願いします。"
- わかりやすい言葉、絵などを使用してもらえるといい
- 例のとおりです。
- 分かりやすいことばにしてほしい。

【精神障害】

- わからない
- そもそも普通の人にも公約などがわかりづらいのでは（ちゃんとわかって投票して
る人がどれだけいるのか・・・）
- 知的障害の人にわかりやすくはなかなかむづかしいかと。"
- わかりやすい言葉やレイアウトで見られるような公報にして欲しい
- 例と同じ（知的な障害のある人にもわかりやすい公報の発行。）

7 欄外に記載されたコメント

- 投票したいと思わないと思う。
- 投票が理解できないと思う。"
- 本人があまり関心がないようなので申し訳ありません。
- 投票とは何かもわからない。
- ひらがなも書けないので投票所に行く気はない。
- 重度の知的障害なので投票の何かも分からないので投票には行けません。
- 小牧の広報で不在者投票のことがありましたが知的な障害の人のことは何もありませんでした。どうしてでしょうか？投票する権利はみんなあるはずですけど。
- ほかの障害のある人ももっと選挙に参加できるようにしてあげてほしい。(入所者やグループホームの子らも)
- 施設職員らの意識を高めてほしい。
- 本人の意思確認ができないので。
- 重度の身体知的障害があり選挙の意味もわからないから。
- 自分の意思が伝えられないけれど、大切な一票その大切な一票が生かせないのは、とても残念なことだと思います。
- だいぶ前の話になりますが、郵送で投票ができると聞きましてその時にお話を伺ったのですが、選挙は本人の意思表示ができる場合に、付き添いの人ではなく係の人の立ち合いで本人からの意思が伝えられれば投票できると聞きました。一度も投票できておりません。
- 選挙の意味も何も理解できない。
- 投票したことがないし今後もしないと思う。
- 知的障害が重度のため投票すること自体が難しい。
- 選挙自体を理解できません
- 本人が投票ってなんだろうかわかっていないと思う
- 重度の知的障害のためどの質問にもお答えできませんでした。
- 申し訳ありませんが、障害があっても選挙に参加させてやりたいと考えておりましたが、全く理解ができないし文字も書けません代筆なんてもってのほか。
- 親が子供のことを考え子供のために声を上げ、障害者が安心できる生活できる社会、親なき後を心配しています。本当にありがとうございました。

5 【取り組み3】ワークショップ「社会を変えよう！選挙に行こう！障害のある人の選挙のバリアフリーを進めよう！」

- (1) 日時 2023年11月26日(日) 13:30-15:30
- (2) 場所 小牧市総合福祉施設ふれあいセンター3階大会議室
- (3) 定員 30名(オンラインによる参加も可能)
- (4) 内容 ・選挙のバリアフリー推進のためのアンケート結果報告
・ゲスト 浅野美子さんからの報告
・選挙のバリアフリーの全国の実践から学ぶ
- (5) 情報保障 手話通訳 小牧市手話通訳者派遣事業
UDトークによるリアルタイム字幕

参加者数 現地17人 オンライン1人

【第1部 アンケート結果報告について】

- 当たり前かとは思いますが障害の種別によって困っていることが、様々であることが分かりました。
- アンケートに協力してくださった方は、「行きたい」と思われていることが多いと感じました。(「行きたいが行けない」方も含めて。)
- 知的障害の方については、ご家族の考え方が影響していると思いました。
- 139名の方がとても真剣に答えてくれていると思った参考になることをいろいろ伝えてもらえたと思う。
- 障がいによって困ることはそれぞれ違って、それぞれに対応してもらわないとやっぱり参加することは大変だと思った。普通の人「ちょっと行こうか」で行けるものでも「準備がとても大変なんだよ！」と当事者家族は思っています。でも、それでも大切な一票をちゃんと届けたいと強く思っています。

【第2部 名古屋の取り組みについて】

○行政も障害者の理解が必要だと思いましたが、当事者として困っていることはそれぞれですので、大変ではありますが、声を出さないと『ない』ことになってしまうと思いました。声を伝えていくことの大切さを感じました。

○3人の子どもさん、それぞれにあわせて選挙に取り組まれてきたこと、障害のある人を一人の人間として大切に向き合っている姿に改めて学ぶことが良かったです。選挙のバリアフリーが、災害時のバリアフリーにもつながること、知ってもらい、困っていることを伝えることが大切なこと、パワフルなお話に元気をもらいました。マイノリティが声を出す、知恵比べ、分かりにくい人に分かるように伝えるためには・・・自分の仕事や活動の参考になる内容でした。

○やっぱり「一人で」言ってもなかなか変わらないんだよなど改めて思い、団体や会で伝えていくことを再認識しました！

【第3部 全国の取り組みを学ぶ】

○市会議員の方からの、ご支援がいただけそうですね。選挙のバリアフリーについて当事者の声が行政に届き小牧が変わり、またそのことで周りの市町に波及することを期待しています。

○自分を含め一般の人の、市の人も知らないことがとても多いと思います。近年NHKのみんなの選挙で色々取り上げられるようになり、浅野さんも言われたようにチャンスだと思います。全国で色々な取り組みがされていることが分かり、小牧でも取り組めることがあると思いました。障害者団体と行政が共に取り組めることもあると思います。

○移動投票バス、いいですねー。いろいろ考えてやってほしいです。

【意見交換会、全体をとおして】

○音声も聞こえやすく良好でした。説明をしてくださる方が切れていたの
で違和感がありましたが、修正いただきありがとうございます。

○当事者の方の意見も毎回のことですが学ぶことが多いです。小牧市議会議員の方が参加させてとても良かったと思いました。選挙のバリアフリーの講演会3
回目でいろいろな議員さんが参加されてきたので、少しずつ話題となり改善さ

れていくのではないかと期待がもてました。

○マニュアルがすべてではないけれどやっぱりあったほうが良いと思うんです
あと電話をして車椅子の子ですがというのですが伝わってないこともありま
した。伝わってなくても対応してもらえるのならいいんですがぜひ当たり前と
して伝わってなくても伝わっていても普通のこととして支援してほしいです。

【本取り組みの評価等】

- 参加人数が増えなかったことについては、反省すべき点は多いが、まだまだ市民のみなさんにこのテーマに関する関心が低いように思われたため、2回予定していたワークショップについて、2回目は中止し、障害者団体の集まりにこちらから訪れ、意見聴取する方向に事業を見直すこととしました。
- 今回も市会議員の参加があり、令和5年小牧市議会第4回定例会において当該議員の一般質問において、「先日、社会を変えよう、選挙に行こう、障がいのある人の選挙のバリアフリーを進めようというワークショップに参加してまいりました。その際に、やはり障がいの方や、障がいといいますが、視覚、聴覚、知的と様々、いろいろあります。そういった方が選挙に行きたくても、バリアフリーがまだしっかりしていない箇所もあれば、実際に投票に行っても、自分が障がい者で、こうしてほしいとか、困っていることに対して、なかなかその方に気づいてもらえないのでというお話も聞いてまいりました。」と私たちのイベントをふまえて質問をされました³。選挙管理委員会委員長とのやりとりも踏まえ、今後の取り組みにつながるものと考えます。
- 浅野美子さんのお話は、選挙というイベントでのバリアフリー（合理的配慮）だけでなく、日常生活におけるコミュニケーション支援をはじめとする配慮が大切であることなど、みんなで声を出して伝えていくことの大切さなど示唆に富むであったことから今後の活動に活かしていきたい。

³ 小牧市議会本会議会議録速報版令和5年第4回定例会2日目

<https://www.city.komaki.aichi.jp/material/files/group/60/reiwa5nendai4kaiteireikai2.pdf>

令和5年度小牧市市民活動助成金交付事業

社会を変えよう！ 選挙に行こう！ 障害のある人の 選挙のバリアフリーを進めよう！



2023年10月1日に行われた小牧市議会議員選挙の投票率は、38.54%でした。前回41.44%よりもさらにダウン。もっと選挙権を大切にしませんか。障害のある人の選挙権を保障する「選挙のバリアフリー」をすすめましょう。

ワークショップを開催します。みんなでいっしょに考えましょう。

【ワークショップ プログラム】

- ・選挙のバリアフリー推進のためのアンケート結果報告
- ・ゲスト 浅野美子さんからの報告
- ・選挙のバリアフリーの全国の実践から学ぶ



浅野さんと息子さん

2023年 **11月26日(日)** 13:30-15:30

小牧市総合福祉施設ふれあいセンター3階大会議室

定員 30名 ※オンラインによる参加も可能

対象 障害のある人、障害のある人の家族、支援者ほかどなたでも

申込方法 FAXまたはホームページから 11月22日(水)締切

参加費無料 手話通訳・UDトークあり

申込方法は裏面をご覧ください。

スマートフォンのアプリ (Uni-voice) を使って下のコードを読み取ることでこのチラシの内容を音声で聞くことができます。



共催 小牧市障害者団体連絡会

特定非営利活動法人で・ら・しえん

6 【取り組み4】当事者がつくる障害特性別投票支援マニュアルの取り組み

- 当初計画では、講演会と並行して実施するアンケートを踏まえ、障害種別ごとに集まり話し合うワークショップを2回開催し、障害特性別の投票支援マニュアルを作成する企画でした。
- 最初8月の講演会について参加者が予定していたほどに集まらなかったことから、まだまだ、障害当事者、支援者に選挙のバリアフリーが浸透していないと考えました。
- そのため、ワークショップの第1回をアンケートの報告と合わせて名古屋での取り組みを聞き、全国の取り組みを学ぶ集会に変更しました。ところが、このワークショップの参加者も、少なかつたため、第2回のワークショップについても各障害別に一定数の参加者を集めることは難しいと判断しました。
- 当初予定していた、①視覚障害、②ろう、③難聴・中途失聴、④知的障害、⑤発達障害、⑥精神障害、⑦重度重複障害の区分でのマニュアル作成については、今年度の作成は断念し、小牧市障害者団体連絡会の構成団体に①視覚障害、③難聴・中途失聴の当事者団体があるので、これらの団体の集会で時間をとっていただき、この2障害についての障害特性別投票支援マニュアルの素案を作成することにしました。
- また、マニュアル作成の方針等についてもあわせて検討しました。

当事者がつくる障害特性別投票支援マニュアル作成の方針(案)

○障害の有無に関わらず、投票する権利があります。権利があるのにそれができないのは、障害のある人の側に問題があるのではなく、社会の側が障害となるバリアを解消できていないということで、私たちは、ともにこのバリアの解消に努める必要があります。

○障害のある人が、個々の特性に応じて投票できるよう配慮するのは、障害者差別禁止法で義務付けされている合理的配慮の提供であり、投票環境を整備することは同法で努力義務とされている環境整備であるといえます。

○合理的配慮の提供とは、

- ① 行政機関等と事業者が、
- ② その事務・事業を行うに当たり、
- ③ 個々の場面で、障害者から「社会的なバリアを取り除いてほしい」旨の意思の表明があった場合に
- ④ その実施に伴う負担が過重でないときに
- ⑤ 社会的なバリアを取り除くために必要かつ合理的な配慮を講ずること

とされています⁴。

○このマニュアルでは、選挙のバリアフリーを場面を4つに分けて整理しています。

- ① 情報のアクセシビリティ(情報保障)
- ② 投票所のバリアフリー環境
- ③ 投票方法、投票用紙など
- ④ その他

行政職員だけでなく、当日投票所で関わる人たちにも分かりやすい平易なパンフレット

⁴ リーフレット「障害者差別解消法が変わります！令和6年4月1日から合理的配慮の提供が義務化されます！」内閣府,https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/sabekai_leaflet-r05.html p.4

とする。

○将来的なことと今の法制度の中でできることを分けて書く

○代理投票については、別にまとめて書く

○合理的配慮の視点で、選挙のバリアフリーを進めることが、他のあらゆる生活場面で
の合理的配慮につながることを基調とする。

障害特性別投票支援マニュアル(素案) 共通項目

障害特性といっても、人それぞれであり、障害名でひとくくり、一律に対応することはできません。障害のある当事者又は家族や支援者からの要望を聞いて対応する必要があります。

たとえば、中途障害の人も多く、視覚障害のある人は、点字があればよい、聴覚障害のある人は、手話があればよいということはいえません。

慣例にとらわれず、法令の範囲で、できることがないか建設的に検討をする姿勢が大切です。

合理的配慮の提供にあたり、建設的対話をするときに、事業者側にとっての NG ワード（言ってはいけない言葉）がつきのとおりです⁵。

対話の NG ワード

1. 「もし何かあったら」「安全のため」
2. 「特別扱いはできません」
3. 「前例がない」「マニュアルにない」

障害のある人自身の自分でやりたい気持ちを大切にします。

時間がかかっても、自分自身で投票したいという気持ちの方もあります。いずれにしても本人の意向を尋ねて、可能な限り対応します。

特別の対応が必要な場合の事前相談を受け付けます。

障害の特性はさまざまであり、全投票所ですべての障害に対応するためにあらかじめ準備をしておくことが望ましいのですが、事実上難しいといえますので、事前相談を積極的に受け付け、当該会場、日時では十分な対応ができる体制をとるということも考えられます。

⁵ NHK 福祉情報サイト ハートネット 「「合理的配慮」がよく分かる 考え方と具体例」, <https://www.nhk.or.jp/heart-net/article/843/>

視覚障害のある人への対応

【情報保障】

○掲示物、配布物の情報はわからない。声で伝える。

○声で伝える

指示語は具体的でないとうわかりにくい。

ここ、あそこ、すこし→前、うしろ、右、左、50cm

【投票所内での対応】

○投票事務従事者から声をかける。

視覚障害のある人からは、どこに係員がいるかわかりません。

○不慣れな場所は、一人での移動は困難

(誘導するときのところがまえ)

・いきなり身体にさわらないで、声をかける

・誘導する人の腕や肩を持ってもらい、誘導する人が半歩ほど先に歩く。

・段差、曲がる方向、周囲の状況を伝えながら歩く。

○物の位置、大きさ、かたちは、実際に触ってもらう。

【投票方法、投票用紙など】

○投票用紙への記載に支援が必要

・弱視の方は油性マジック等の利用も可

・事前に投票支援グッズの利用について相談があったときは、建設的に検討します。

アンケートやワークショップで寄せられた声(視覚障害者)

- 視覚障害のため、行きなれていない学校に行くのが難しい。
- 代理投票の際、大きな声で復唱されると投票の秘密が守られない。
- 候補者の名前を忘れたときには、掲示が読めないので読み上げて欲しい。
- 候補者の政策についての情報が入りにくい。わかりやすい選挙広報の取り組みは、知的障害者だけでなく視覚障害者向けにもやって欲しい。

(以下略)

聴覚障害のある人(難聴者・中途失聴者)への対応

【情報保障】

○聴覚障害のある人は、本人から申し出がないと、外見で困っておられるかどうかわかりません。

⇒ 聴覚障害のある人から相談しやすいように、【耳マークの表示】をします。

○聴覚障害のある人のうち、中途失聴者や難聴者は、手話を使わない方が多く、文字情報の方が分かりやすいです。

⇒ 筆談対応またはコミュニケーションボードでの対応をします。

コミュニケーションボードは、受付のわかりやすい場所におきます。

○演説会などには、手話通訳だけでなく、要約筆記の配置も必要です。

【投票所内での対応】

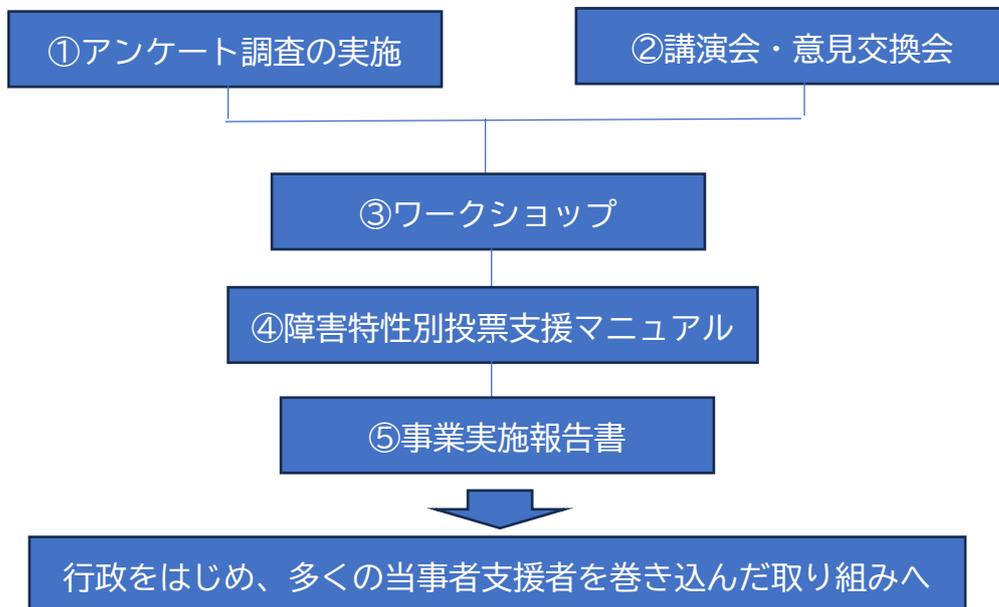
○耳マークを受付のわかりやすい場所におき、聴覚障害のある人から相談しやすいようにします。

【投票方法、投票用紙など】

○口頭での説明は聞き取れないので、文字情報で注意事項を掲出します。

7 まとめ

○図に記したように、①アンケートにより、当事者の思いを受け止め、②講演会・意見交換会で選挙のバリアフリーの取り組みの意義を学び、③障害特性別にワークショップをして、④当事者発信の障害特性別投票支援マニュアルを作成し、これらの取り組みをとりまとめた⑤事業実施報告書を作成・配布することで、次年度以降の活動につなげたいとの計画でした。



○全体として、事業を実施してきたけれども、市民・障害当事者・支援者の十分な反応を引き起こすまでに至らなかったため、障害特性別投票支援マニュアルについては、一部の案を作成するにとどまりました。

○このことについては、あえて言い訳をすれば、この地域において「いまだ機が熟していない」状況の中での取り組みであったか、との思いもあります。そのような状況の中では、「集客型イベント」での取り組みでは成果をあげづらかったと考えています。

○そのため、ワークショップ2回目については集客型イベントを休止し、団体の集まりにこちらからおじゃまする形でのアプローチをとることにし、一定の成果をえることができました。

- 小牧市市民活動促進委員会からの提言書には、「2 今後の事業展開における提言」として、「小牧市の選挙管理委員会と定年に対話しながら投票行動につながるように進め、今回の事業の成果をもとに、選挙のバリアフリーに向けて今後協働して展開できることを期待します」との提言をいただきました。（P. 10参照）
- 選挙のバリアフリーは、公的な制度のもとで進められるものであり、先進の地域でみられるように行政との協働でこそ実を得ることができると考えられます。その意味では、私たちも早期に行政との協働にたどり着ければと考えています。
- 今年度については、会のメンバーが個別に選挙管理委員会に連絡をとって相談をしていますが、会として具体的に要望を提出したり、行政の取り組みを照会するようなことはしていません。まず、アンケートや意見交換会、障害特性別投票支援マニュアルの作成などで、今年度、団体としての意見をとりまとめた上で行政にアプローチしていきたいと考えていたため、来年度以降の取り組みとしていきます。
- 今年度は、アンケート、イベントの開催により、小牧市障害者団体連絡会とで・らしえんの取り組みを多くの方に知ってもらい、市議会でも取り上げていただきましたので、成果はあったものと考えています。
- 来年度は、小牧市及び周辺市町での選挙のバリアフリーに関心のある団体や人につながっていくこと、行政に具体的な取り組みを提言していくことを目指していきたいと考えています。
- 東京都狛江市は、2013年から知的障害者の投票支援に取り組み、いまなお発展的に取り組みを進められています⁶。私たちも、長期的な取り組みとして少しずつでも歩みを進めていきたいと考えています。

⁶ 狛江市の取り組みについては、堀川諭(2024)『知的障害者と「わかりやすい選挙」—新しい権利保障としての「狛江モデル」構築の軌跡』生活書院、に詳細な分析があります。

令和5年度小牧市市民活動助成金交付事業

2023年7月

小牧市障害者団体連絡会通信

No.13

つながって → ひろげる

5年目の活動

共同代表 山中和彦

2019年2月24日にスタートした小牧市障害者団体連絡会の活動も、2023年2月で丸4年。すでに5年目の年を迎えている。障害のある仲間たちの団体、支援者の団体が、つながって、互いの障害のことについて学び、共感したことを、市民に伝え、思いを広げていくことを活動の指針とし、「つながって⇒広げる」をキャッチフレーズにスタートした。

視覚障害のある人、聴覚障害のある人、重い障害のあるお子さんを抱えた人たちが、集まって話し合うことだけでも苦勞が多かった。けれども、コロナ禍のなか、地道に定例会を開催し、会報を発行し続けることで、お互いの障害特性を知り、その上で、より良い地域づくりに活躍されている姿を見て、励まされることが多かった。

昨年度、「選挙のバリアフリー」という共通のテーマを見つけ、今年度は事業として、しっかりと取り組むこととなった。5年目にしようやく「つながって⇒広げる」の芽がでてきたように思う。市民活動は、継続して取り組むことが必要だとあらためて思った。さらに5年先をみすえて頑張っていきたい。



選挙の バリアフリーの 取り組み

2023年 **8月27日**(日)
13:30~16:00
【会場】ふれあいセンター3階 大会議室

【内容】1部 講演「選挙のバリアフリーとわかりやすい選挙情報」

講師：京都産業大学 准教授 堀川諭さん

2部 意見交換会「選挙のバリアフリーに向けて

～私たちが困っていること」

【定員】60名※オンラインによる参加可能。

【対象】障害のある人、障害のある人の家族、支援者ほかどなたでも

【申込み方法】FAXまたはホームページから。8月20日(日)締切
申込方法については2ページに記載しています。

共催 小牧市障害者団体連絡会/特定非営利活動法人で・ら・しえん

後援 小牧市 小牧市選挙管理委員会 小牧市教育委員会

特定非営利活動法人こまき市民活動ネットワーク



堀川 諭さん

参加費無料
手話通訳・
UDトークあります

団体活動報告

小牧市難聴・中途失聴者協会

新しい年度が始まり、コロナの五類移行で活動の幅が広がりました。とはいえ、高齢者ばかりの当会ではまだまだ気を配っての活動です。

4月は総会を行い、年間行事が決まりました。5月は市の出前講座「おひとりさまの終活講座～いざというときに頼れるもの～」。講師を招き久しぶりに勉強会をしました。「今を楽し



▲7月の定例会で作るクラフトテープのコスター

んで生きることが大切」「終活はいつから始めても良い。今日からでも」と学びました。ポチポチと頑張ってみようかと皆さん納得の様子

でした。6月は、社協主催の要約筆記ボランティア講座の中での交流会。受講者やサークル員にノートテイクや筆談の実習をしていただき、日頃の寂しさを晴らすように大いにおしゃべりをしました。7月は会員を講師に「クラフトテープでコースター作り」、8月はお休みで、9月は簡単なパン作りを予定しています。楽しみです。(古木)



▲5月に行った出前講座「おひとりさまの終活講座」

ここばかりこまき

新年度が始まり、ここばかりこまきの活動も少しずつコロナ前に近い状態に戻っています。4月23日と6月11日にミーティングを行い、それぞれ4～5名の参加でしたが、今年度の方針や計画を立てました。ここばかりが長く続けてきた「当事者から学ぶ」シリーズは、昨年度の発達障害研修会で一応一段落として、今年度は久しぶりにイベントを行い、いろいろな人とつながっていく取り組みをすることと、ここばかりメンバーも関心がある障害のある人の防災についての研修をしようかと話しています。

イベントとしては、以前行った映画「普通に生きる」の上映に続き、生きて、生きて、生きて、普通に生きて「普通に死ぬ～いのちの自立～」というドキュメンタリー映画を9月3日、東部市民センターで午前午後2回無料上映することとし、準備を始めました。※映画情報は6ページをご覧ください。

また、今年度はまず内部研修として、防災についての基本的な研修を小牧防災リーダー会に依頼していくことにしています。メンバーも忙しく、コロナ禍で生活パターンも変わっていて、なかなか集まらない状況もありますが、少人数でもコツコツ続けながらまたみんなが元気になる活動にしていきたいと思います。そのためにも、ここばかり通信発行も行っていく予定です。(御手洗)

こまき視覚障がい者の会

「ひろがって、つながっていくために大切なこと」

こまき視覚障がい者の会は発足して3年が経ち、毎年4月に開催している「お散歩サロン」も3回目を迎えました、是非今年のお散歩サロンのことをご紹介しますと思います。

大河ドラマの影響もあってか歴史に関心も高まり、面白い歴史ガイドさんがいるという口コミで名古屋から参加される方もいましたが、なんとといっても4月1日に小牧山城がリニューアルオープンを迎え、これまで秘密裡に進められてきた城内の全容を拜見できるという期待感もありました。

また、車いすの方、盲ろうの方の参加希望があったので、昨年までとはまた違った準備が必要となりました。「車いすでどこまでいけるか?」や、「盲ろうの方どのように会話したらよいか?」、もしもの場合の連絡方法など、、、一人の人を大切に受け入れるため、知恵を絞り心を砕き、ボランティアさんたちも団結してサポートしてくださいました。本当に小さなイベントですが、小牧市が目指す「一人も取り残さない」街づくりのために、大切な学びが詰まったイベントでした。このようなことは「実践」しなければ得られないものだとつくづく思います。参加された方々から「小牧市のボランティアさんたちの働きはすごい!」と感嘆の声もいただきました。(水谷)



▲「れきしるこまき」の前で、笑顔で記念撮影をする参加者

小牧市おもちゃ図書館きらら

新年度が始まりました。「おもちゃ図書館きらら」では、しょうがいや発達に不安のあるお子さんを対象に、おもちゃの貸し出しや、遊びの企画「あそぼう DAY」を行ってきました。ここ3年間、思うような活動ができないこともありましたが、心機一転、頑張っていきたいと思っています。プレイルームの利用は、身体の弱い方や小さな子供たちが利用する場として、今まで通り入室時の体温チェックや使用後のおもちゃの消毒を行い、大人の方はできるだけマスクを着用するなど、ご協力をお願いしています。

また、今年度から、年に4回発行しているきららニュースがカラー刷りになりました。新しく加わったおもちゃの紹介も、カラーになったことでとても見やすく、より参考にしてもらえるのではないかと期待しています。

7月には、今年度最初のあそぼう DAY を企画しています。たくさんの笑顔に出会えることを楽しみにしています。(船橋)

本年度の「遊ぼう DAY」は次のように予定しています。

- ★7月23日(日) 夏休み『わくわく縁日』(ふれあいセンター)
- ★12月3日(日) クリスマスコンサート (ふれあいセンター)
- ★2月18日(日) たのしいおもちゃ作り (デイサービスひかり)



▲きららニュースのおもちゃの紹介ページ

小牧市肢体不自由児者父母の会

今年度が始まり、もう4ヶ月目になりました。コロナウイルスがインフルエンザ等と同様の五類に分類され、世の中は日常を取り戻しつつあります。が、普段からあまり丈夫でない子ども達と一緒に生活している私共は正直、まだまだ怖さが強いです。それでも、「日常」を少しずつでも取り戻して行きたいと思っています。



▲浜松市で行われた東海北陸ブロック退会

今年は障害者計画策定の見直しを来年にひかえていることもあり、団体へのヒヤリングを積極的にいただいでいます。

障害があっても生活の場の多様性、親亡き後も幸せに普通に暮らせるように、また、大きな災害がおこる可能性を示されている東海地区ですが、他県での災害に学び備える事などをお伝えしてきました。今年度はみんなで集まることを前提に行事を行っていきたいと思っています。



▲「障害児の災害時の避難行動」の調査結果から、避難所は今も障害児にとって避難しにくいことが読み取れた。

東海北陸ブロック大会が6月10・11日に浜松市で行われました。「地域における親の会の役割 ～支援の必要な子ども達の声が届ける～」として、避難所での障害のある方達の様子や実際に1995年阪神淡路大震災から2017年熊本地震の間に20年以上たっていますが、ほとんど変化がなく、かえって避難所の利用は減少傾向であるとお話があり、なかなか教訓がいかされない状況であることがとても残念でした。「インクルーシブ防災」といった言葉も聴かれた講演会でしたが、ハードルは高そうです。それでも、子ども達の幸せな未来のためにコツコツ継続する事が大切だと改めて強く思いました。知っていただく努力も引き続き頑張っていきます。(上田)

■ 令和4年度 小牧市障害者団体連絡会 会計報告 ■

収入	項目	収入額	備考
会費	正会員	14,000	2,000円×7団体 1,000円×5団体
	賛助会員	5,000	
補助金	市民活動助成金	45,144	
寄付金		10,000	
繰越金		2,576	
収入合計		76,720	
支出	項目	支出額	内容
事業費	賃借料	5,238	レンタルサーバー代
	諸謝金	5,909	交流会講師関係費
	印刷製本費	31,207	郵送料、FAX
	通信運搬費	32,689	通信、チラシ印刷代
	手数料	220	振込手数料
支出合計		75,263	
繰越金	次年度へ	1,457	

●イベントの案内

内容	日時	場所	問合せ・申込先
バリアフリー上映会 「普通に死ぬ～いのちの自立～」 【定員】各100名(先着順) 【参加費】無料 ※手話・字幕あり	9月3日(日) ①10:30～12:30 ②13:30～15:30 意見交流～16:00 ※開場は①②いずれも 開演30分前	東部市民センター講堂	ここばりこまき 【FAX】050-3145-3224(山中) 【Mail】mail@kokobari-komaki.net 申込フォーム 

●定期活動の紹介 ※日時・場所は原則です。各団体の問合せ先にご確認ください。

団体名	内容	日時・場所	問合せ先
小牧市難聴・中途失聴者協会	定例会 会員同士の交流・趣味を深める・行楽など	第3土曜日(8月は休み) 10:00～正午 ふれあいセンター視聴覚室 または第3会議室	仲間を募集しています。気軽にお問い合わせください。 【FAX】 0568-73-9433(古木)
こまき視覚障がい者の会	iPhone 講座	奇数月第2土曜日 13:30～15:00 市民交流テラス多目的室	仲間やサポートして下さる方を募集しています。和気あいあいとした雰囲気です。 【TEL】 090-3933-3557(水谷) 【Mail】 way.hazime@gmail.com
	点字サークルプライユ	奇数月第2土曜日 13:30～15:00 市民交流テラス多目的室	
	おしゃべりサロン	偶数月第2土曜日 視覚障がい者の社会参加のため、全ての人が暮らしやすい街づくりのための自由で楽しい企画	
小牧市おもちゃ図書館きらら	定例会 あそぼう DAYの企画・通信の発行等	第1月曜日 18:30～19:30 又は第1火曜日午前 デイサービス施設ひかり	ボランティア仲間を募集中。一緒に活動しませんか。 【TEL】 0568-71-1003(浅見)
	おもちゃの清掃	年に数回 デイサービス施設ひかり	

【会員を募集しています】

小牧市のさまざまな障害者当事者団体、支援者団体がつながって、いろいろな障害のある人の立場を互いに知りあい、共同して市民に向けて発信していくことで、障害のある人も誰もが暮らしやすいまちづくりを進めていくことを目的に活動しています。活動に賛同していただける団体、個人の方を募集しています。

■正会員(団体のみ 年会費 2,000円) ■団体賛助会員(年会費 1,000円) ■個人賛助会員(年会費 1,000円)

※賛助会員は、活動への参加は難しいけれど趣旨に賛同し、イベントへの参加や活動の周知等を通じて応援して下さる会員です。議決権はありませんが、イベント等のご案内を差し上げます。申込みは下記メールアドレスへご連絡ください。

■小牧市障害者団体連絡会加入団体(50音順)：正会員(5) 賛助会員(5)

【正会員】ここばりこまき、小牧市おもちゃ図書館きらら、こまき視覚障がい者の会、小牧市肢体不自由児者父母の会、小牧市難聴・中途失聴者協会、

【賛助会員】小牧市聴覚障害者福祉協会、小牧おひさまクラブ、手話サークルおてだま、手話サークルふたば、全国障害者問題研究会小牧サークルかざぐるま

小牧市障害者団体連絡会通信 2023年7月発行
 〒485-0811 小牧市光ヶ丘1-1 アクシス光ヶ丘4-403(山中)
 【メール】 mail@komaki-sdr.sakura.ne.jp
 【ホームページ】 http://komaki-sdr.sakura.ne.jp

※視覚障害のある方へ
 ホームページに本通信の
 テキスト版があります。



2023年12月

小牧市障害者団体連絡会通信

No.14

つながって → ひろげる

選挙のバリアフリーを進めよう！

共同代表 山中和彦

今年度、小牧市障害者団体連絡会では、小牧市市民活動助成金の交付を受けて、「選挙のバリアフリー」に取り組んでいます。

選挙権はどんなに障害が重い人にも保障されています。しかし、障害がある人が実際に投票しようとする、障壁となるもの(バリア)があるとわれています。

このバリアを取りのぞこうとする活動が、今、全国に広がりつつあります。

8月27日 講演会「選挙のバリアフリーとわかりやすい選挙情報」の開催

一つ目の取り組みとして、京都産業大学の堀川諭先生をお招きして、「選挙のバリアフリーとわかりやすい選挙情報」をテーマに講演していただきました。

堀川先生は、障害者基本法第28条には、「国及び地方公共団体は、法律又は条例の定めるところにより行われる選挙、国民審査又は投票において、**障害者が円滑に投票できるようにするため、投票所の施設又は設備の整備その他必要な施策を講じなければならない**」とされていることを指摘され、具体的に東京都狛江市の投票支援がどのようになされているのか、紹介をしていただきました。

東京都狛江市では、手をつなぐ親の会と連携をとって、次のような活動をされてきました。

- ・2013年7月参院選に向け、初の体験投票
- ・2014年1月初のわかりやすい演説会(都知事選)
- ・2015年4月市議選に向け、わかりやすい選挙広報誌作成

- ・2016年5月市長選に向け、わかりやすい演説会
- ・2016年10月～模擬投票などのDVD製作プロジェクト始動 全国の知的障害者団体に配布
- ・2017年10月衆院選に向け、東京都第22区候補者の「わかりやすい政見動画」

これらの投票支援について、「知的障害者向け投票支援は『みんなにとっての分かりやすさ』につながるのではないか。『ユニバーサルな投票のしやすさ』につながるのではないか」とのお話がありました。



▲第2部の意見交換会では、選挙のバリアフリーに向けて困っていることについて話し合いました

参加者からは「選挙に参加することは、その前提として民主主義的な経験(職場で意見を出し合う、学級委員の選挙など)の経験がないと理解が難しいとの説明が印象に残りました。こどものころからこのよう経験ができることが重要だと感じました」、「障害を問わず、わかりやすい選挙は必要だと思う。公報は、難しい言葉をできるだけ省き、理解しやすい内容にしたり、拡大文字版や点字版、音訳版CDの配布、手話通訳版動画配信など、市町村単位での選挙では時間的制約もあるだろうが、高齢者も含めた、あらゆる人にやさしい選挙であってほしい」などの意見が寄せられました。

「選挙のバリアフリー推進」のための
アンケートの実施

ふたつめの取り組み。障害のある人たちの投票
に対する考え方などを知るためにアンケートを実施
しました。

- 1 実施時期 2023年9月～10月
- 2 実施方法 アンケートを障害者団体、障害福祉
事業所に送付またはスタッフ(当該事業所利用
者)から手渡し(1000通)
- 3 回収方法 オンラインによる回答、受取人料金
払郵便により郵送回答、スタッフによる手渡し
回収 合計139通

重い知的障害のある人の家族からは、本人は障
害が重くて、選挙が理解できないと諦めた様子
の方もあれば、なんとか選挙を通じて障害のある子
を社会にも認めてもらいたいとの思いを記され
る方もありました。

以下に、アンケート結果の抜粋を掲載します。

1 回答者

本人 83人 家族 55人 支援者 1人
合計139人※家族55人のうち、51人は知的
障害のある人の家族です。

2 障害種別

視覚障害(20) 聴覚障害(15) その他の身体
障害(35) 知的障害(67) 精神障害(30)
延べ数(167)

【質問3】投票への関心



【質問4】投票所に行くのに困っていますか。
(投票所までのバリア)

	全体	視覚 障害	聴覚 障害	他の身 体障害	知的 障害	精神 障害
困っている	90	10	12	18	38	25
困っていない	30	9	1	13	15	3
無記入	19	1	2	4	14	2
合計	139	20	15	35	67	30

【質問5】投票所の中で困っていることはありますか。
(投票所内でのバリア)

	全体	視覚 障害	聴覚 障害	他の身 体障害	知的 障害	精神 障害
困っている	86	13	12	18	29	27
困っていない	25	6	1	10	15	2
無記入	28	1	2	7	23	1
合計	139	20	15	35	67	30

【質問6】選挙情報(立候補者の政策など)を知る上で困
っていますか。

	全体	視覚 障害	聴覚 障害	他の身 体障害	知的 障害	精神 障害
困っている	73	15	7	16	22	25
困っていない	35	3	4	11	23	4
無記入	31	2	4	8	22	1
合計	139	20	15	35	67	30

※アンケート結果の詳細は下記のアドレスからご覧いた
だけます。質問3～6について、どのようなことで困って
いるか、またどのようにしてほしいかなど、具体的なご
意見が多数寄せられています。

<https://wp.me/pastch-fb>

11月26日 ワークショップ「社会を変えよう！選挙に行こう！障害のある人の選挙のバリアフリーを進めよう！」の開催

3つ目の取り組みとして、ワークショップを開催しました。①前記のアンケート結果の報告とゲストに、②名古屋市内でこの課題に取り組んでおられる浅野美子さんからの報告を受け、また、③NHKの「みんなの選挙」のサイトの記事から全国の事例を学び、参加者で話しあいました。



▲浅野美子さん

3人の障害のあるお子さんをお持ちの浅野美さんは、よかネットあいちの活動を通じて、得たものなどお話をいただきました。

まず、「わかりやすい情報提供ガイドライン」(厚生労働省)や「愛知県手話言語・障害者コミュニケーション条例」の紹介があり、選挙のバリアフリーの問題以前に、日ごろからわかりやすい情報提供の環境を整えているのか、問いかけがありました。

また、3人のお子さんが選挙のときどのような準備をしているか紹介があり、他の人のやりかたも具体的に学ぶことで、いろいろな取り組みが広がっていく。大人や支援者が「この人たちは選べないのではなく選ばせていない」と気づかなければいけない。そして、選挙のときだけでなく、普段から、大人や支援者は、「指示する人ではなく、支援する人だ」ということを伝えなければならない。

事例を学び、障害のある当事者に伝えていかなければならない。障害があってもなくても、私たちは社会で生きているんだよ、ということ。災害のことを考えても同じで、いろんな機会に、本人さんといっしょに考えていく。そして声をあげていくことが大切、というようなお話がありました。

さらに、草の根で伝えていかなければならない。行政が机の上で考えるのではなく、当事者が自分たちはこうして欲しいということ、困っている

ことを可視化して伝えていくことが大切。確かに、障害の特性毎に違いはあるけれども、みんなで声をあげる取り組みが大切とお話も。

いろいろな情報を提供してもらい、みんなが自分たちが行動しなければ、やらなければという気持ちになったお話でした。

参加者からは、「行政も障害者の理解が必要だと思えますが、当事者として困っていることはそれぞれですので、大変ではありますが、声を出さないと『ない』ことになってしまうと思いました。声を伝えていくことの大切さを感じました」との意見がありました。



▲名古屋市内での浅野さんの取り組みや、全国の事例を知り、参加者からは前向きな発言が多数ありました

これからの取り組み

NHKの「みんなの選挙」をはじめ、いろいろな媒体で、選挙のバリアフリーについての記事を見るようになってきました。私たちのイベントにそれぞれ、市議会議員の方が参加いただき、活動の意義についても理解していただきました。少しずつ広がってきているのだと実感しています。

この選挙のバリアフリーの取り組みは、障害者差別解消法に規定されている「合理的配慮の提供」を実現していく取り組みでもあります。障害のある人の日常生活における合理的配慮のきっかけとなると考えています。

障害特性別投票支援マニュアルの作成を目指していますが、これから各障害者団体に働きかけていき、いっしょに検討していきたいと考えています。御支援をよろしくお願いします。

団体活動報告

小牧市難聴・中途失聴者協会

とても暑かった今夏、今も秋が続いているような気候ですが、もう「師走」。

8月は休会。9月はコロナで中止になっていたふれあいセンターの調理室が利用できるようになり、ホットケーキの素で簡単なケーキ作りをしました。2か月ぶりの例会なので、焼きあがったケーキとコーヒーでおしゃべりの花が咲きました。9月末にあった市総合防災訓練で「このマークをご存知ですか？」と耳マークの周知活動をしました。10月は「福祉展」の要約筆記コーナーで、来場者と筆談で交流に協力をして、11月は、12月にふれあいセンターの2階で初出展する作品展の作品作りをしました。展示準備も会員が協力して行い、いろいろな作品を来館者に見ていただけたと思います。

毎年12月に行う「耳の不自由な方の交流会」は、案内が広報発行の翌日の開催となりましたが、2名の新しい方が参加してくださり「こんなに仲間がいるの？」とビックリされていました。9月から充実した活動ができたと思います。来年もワイワイとにぎやかに仲良く活動したいものです。(古木)



▲ふれあいセンター2階の展示コーナーに飾った作品の数々

▶展示準備をする会員



ここばかりこまき

コロナ禍でなかなかできなかったイベントとして、9月3日、久しぶりに映画上映会を行いました。「普通に死ぬ」という重度の障害者の自立や、年を重ねていく障害当事者や家族のドキュメンタリー映画でした。参加者はまだ少なめでしたが、医療的ケアの必要な方が地域で暮らす厳しさ、家族が病気で亡くなった後の暮らしのことなど、ご本人の気持ちや周りの支援者の思いをひしひしと感じる映画で、いろいろ考えさせられました。

そして、11月19日には、ここばかりこまきメンバーの研修として小牧災害ボランティアネットの会の鳥居さんをお招きして、防災について学びました。小牧市防災ガイドブックについて丁寧に説明いただき、地震や風水害への備えとして、まずはハザードマップで「まち」を知り、備えをすることの大切さを学びました。障害者にとっての防災としては、災害時は支援者も被災者になるので、まずは自分たちでできること＝自助としての備えをし、その上で地域や行政にしてほしいことを考えて共助・公助へとつなげる準備をすることが大切ということでした。また、いつも食べているレトルト食品などを備えて賞味期限前に食べて、買い足すというローリングストック法も勧められました。この研修をどう生かしていくか・・・をまた考えていきたいです。(御手洗)



▲各家庭に配られている「小牧市防災ガイドブック」の活用について学ぶメンバー

小牧市肢体不自由児者父母の会

9月になっても暑い日が続き、秋が駆け足で過ぎてしまいました。

今年も11月に『小牧市障がい児スポーツレクリエーションのつどい』がありました。昨年に続き、開催されたことで楽しい1日を子ども達と過ごすことが出来ました。今年はインフルエンザが例年に比べてずいぶん早い時期から猛威をふるっていて、ドキドキしながらの参加でした。参加人数も昨年より多くなりましたが、感染対策も社会福祉協議会の方々や実行委員の方、沢山のボランティアの方がいろいろと考えて下さいました。楽しい1日が過ごせました。御尽力頂いた皆様、本当にありがとうございます。

父母の会としては、この後12月にクリスマス会を行います。音楽療法士によるクリスマスコンサートです。今年は簡単な工作を行い、みんなで楽しくコンサートを盛り上げる予定です。詳しいことは次の活動報告で。良いお年をお迎え下さい。(上田)



▲『小牧市障がい児スポーツレクリエーションのつどい』で楽しむ子どもたち

こまき視覚障がい者の会

活動の中で感じること

「今年はどこもかしこもイベントだらけ？」という当会も例外ではなく、8月以降はイベントに追われているという感じがありました。(こまき視覚障がい者の会のfacebookで紹介しています)

時に「何故、引き受けたのか？」という意見も出るほどで、がむしゃらに走って来たこれまでとは違って、当会も正しく「選択」することを求められるようになりました。

ところで「選択」するには材料や基準が必要になりますが、その材料が少しずつ集まっていることはとても嬉しいことです。されど「基準」とは何か？コロナ禍のように時期というものも要素ではありますが、やはり「基準」は変わることがなくブレないものであるべきでしょう。



▲名古屋芸術大学でのレクチャーは、10月に当会が主催する『暗闇のアート展』で協力を得る学生さんたちに、目の見えない、見えにくい世界への理解を深めてもらうために行いました。

幸いなことに会のイベントはとても順調ですが、それだけでなくプロボノの助成金にチャレンジし不採用で残念な結果だったのは必要な体験だったし、名古屋芸術大学・文芸ライティングコースでのレクチャーなどは、学生を前にして語りながら「何を目的として活動するのか？」を振り返る良い機会になりました。

活動はまだまだイベント続きで、追加で組み込まれることもあります。コアとなることを外さずに進んで行きたいと思っています。(水谷)

小牧市おもちゃ図書館さらら

9月24日(日)「ふれあいまつり」に参加しました。今年はジュースの販売のみで、以前のようにおもちゃで遊ぶコーナーもできるといいと思いました。



▲福祉展でのおもちゃづくり

10月22日(日)「福祉展」に参加し、いつものように手作りおもちゃをみんなで作りました。紙コップとガチャガチャのカプセルでできる「おきあがりこぼし」です。おもちを入れたカプセルの半分を紙コップの底にテープでつけるだけで完成。折り紙やシールでデコレーションしました。上下さかさまにしておしり部分を突つくとあーら不思議、くるっとひっくり返ってもと通りに立ち上がります。材料はお昼過ぎにはなくなっていました。

11月23日(木)「おもちゃ図書館研修会」に参加しました。新しいおもちゃや簡単な手作りおもちゃの紹介もありました。とても参考になりました。

12月3日(日)今年もふれあいセンターで「ピアノコンサート」を行いました。サンタの衣装で登場した KAKERU さんの生演奏は日常を忘れさせてくれます。スタッフのハンドベル『もろびとこぞりて』の演奏に始まり、アンパンマンやディズニーの曲はもちろん、お父さん、お母さんの懐かしいリクエスト曲にも応えてくださいます。時間はあっという間に過ぎました。来年度は時間拡大して、みんなで踊ったり楽器を鳴らしたりして楽しもうと思っています。



▲毎年恒例のクリスマスピアノコンサート

1月21日(日)には、他のおもちゃ図書館の方々を招いて学習会を予定しています。新しい企画や運営方法のヒントが見つかるかと期待しています。

2月18日(日)本年度3回目の遊ぼう DAYは『ポッチャで遊ぼう』です。みんなが安心して参加できるように工夫します。今からワクワクしています。(船橋)

【会員を募集しています】

小牧市のさまざまな障害者当事者団体、支援者団体がつながって、いろいろな障害のある人の立場を互いに知りあい、共同して市民に向けて発信していくことで、障害のある人も誰もが暮らしやすいまちづくりを進めていくことを目的に活動しています。活動に賛同していただける団体、個人の方を募集しています。

■正会員(団体のみ 年会費 2,000 円) ■団体賛助会員(年会費 1,000 円) ■個人賛助会員(年会費 1,000 円)

※賛助会員は、活動への参加は難しいけれど趣旨に賛同し、イベントへの参加や活動の周知等を通じて応援してくださる会員です。議決権はありませんが、イベント等のご案内を差し上げます。申込みは下記メールアドレスへご連絡ください。

■小牧市障害者団体連絡会加入団体(50音順)：正会員(5) 賛助会員(5)

【正会員】ここぼりこまき、小牧市おもちゃ図書館さらら、こまき視覚障がい者の会、小牧市肢体不自由児者父母の会、小牧市難聴・中途失聴者協会

【賛助会員】小牧市聴覚障害者福祉協会、小牧おひさまクラブ、手話サークルおてだま、手話サークルふたば、全国障害者問題研究会小牧サークルかざぐるま

小牧市障害者団体連絡会通信 2023年12月発行
〒485-0811 小牧市光ヶ丘1-1 アクシス光ヶ丘4-403(山中)
【メール】 mail@komaki-sdr.sakura.ne.jp
【ホームページ】 http://komaki-sdr.sakura.ne.jp

※視覚障害のある方へ
ホームページに本通信の
テキスト版があります。



2024年3月	小牧市障害者団体連絡会通信
No.15	つながって → ひろげる



選挙に行こう！ 体験談を読んで

共同代表 山中和彦

2人の体験談を読んで

私のこの文章の後に、障害のある息子さんの投票体験を2人のお母さんが体験談として寄稿いただいています。ぜひお読みください。

それぞれすでに障害のある息子さんの選挙権行使について考え行動されていたのが、私たち障害者団体連絡会の取り組みに触れて、さらに一歩進んで行けたとのことで嬉しく思います。

障害者差別解消法を使って遠慮なく

障害者差別解消法に従えば、行政には、合理的配慮を提供しなければならないとの法的義務があります。合理的配慮は、①障害のある人(家族、支援者も可)から社会的障壁の排除の要請があったときに、②行政、事業者側に過重な負担がない範囲で必要な対応をすることを求めるものです。

この対応策を検討するために、「建設的対話」が求められています。建設的対話では、①「もし何かあったら」「安全のため」、②「特別扱いはできません」、③「前例がない」「マニュアルがない」は、行政側が言うてはならないNGワードだとされています。

特に、選挙のバリアフリーの場面では、③の「前例がない」「マニュアルがない」と言われてしまいそうです。ですので、私たちの活動は、マニュアル作りもターゲットに入れています。

障害者差別解消法では、合理的配慮の提供は行

政・事業所に義務づけられていますので、遠慮なく行政に要請していくことができます。

当事者の側から要請すること

合理的配慮の提供義務の場面では、当事者の側から要請することも大切な要素となっています。

一人ひとり障害の内容や必要な支援が違うから、個別に対応してもらう、その検討が必要なのです。

ということで、選挙のバリアフリーを障害者差別解消法の視点からみると、当事者の側から働きかけることがスタートになるのです。お二人のご家族のように選挙管理委員会(市役所内)に事前に電話で相談をしたりすることも大切ですし、それがハードルが高いのなら、直接投票場に行ってみてその場でやりとりをするのもいいと思います。一人で進むのがハードルが高ければ、行政に直接ではなくても、身近な障害者団体、仲間と話し合っていくこともとても大切なことと思います。選挙のバリアフリーをひとつの取り組みとして、合理的配慮の提供を日常の当たり前にしていきたいものです。

選挙は、非日常だけれど

選挙は、どちらかという非日常の話ですが、人権、民主主義に関わるものとして、行政や地域のみなさんが真剣に取り組まれるイベントでもあり、障

害のある人たちが合理的配慮の提供を求め、行政はきちんとそれに答えていただく場面として、私たちは、とても重要な機会ととらえています。

総務省も NHK も新聞社も、選挙のバリアフリーを取り上げる機会が増えていて、社会全体の関心が少しずつですが高まってきていると感じています。

この後も、来年の7月には参議院選挙、来年の10月には衆議院議員の任期満了など大きな選挙

が待ち構えています。私たちも、これらの機を逃さず、選挙のバリアフリーを着実に進めていく努力をしたいと考えています。

みなさんのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



体験談① <Sさんの母>

息子は23歳にして初めて投票をしました。これまででは全く考えてなかったのですが、今年(令和5年)の選挙で、初めて息子の選挙権について考えました。本人が「投票所で意思を示すこと」はできなくても、選挙権はあるのだから、自分が望む人に一票を託したいとの意思を汲んでもいいのではと考えました。

そこでこれまで調べたことのなかった知的障害のある人の投票について調べてみました。「NHK みんなの選挙」には、「投票所には介助者が入れること」、「係りの人に手助けを頼めること」、「投票にあたり自分で用意した候補者に関するメモを持参できること」が書かれていました。しかしその手順として「代理投票の希望を係りの人に伝える」とあったので、本人が伝えられなかったらダメなのでは?と心配になりました。そこで市役所に問い合わせたところ、本人が伝えられなくても大丈夫とのことで、息子が投票する会場へ、事前に連絡をしてくださいました。そして投票所では二人の係りの方に対応していただき、騒がしくも何とか投票できました。

その後しばらくして、「選挙のバリアフリーの取り組み」の講演会(小牧市障害者団体連絡会等)に参加しました。そこでは「選挙の能力と人権(選挙権)」について話されていて、知的障害者への

投票支援は広がりつつあるとのことでした。また東京都狛江市での知的障害者向け投票支援として、演説や選挙公報、政見放送動画などについて分かり易くする工夫や代理投票への取り組みについて話されていました。そして、代理投票を希望する意思表示のための用紙があり、投票には1ページ1候補者の選挙公報を家で選んで持参することも認められているとのことでした。

息子の場合、今年2回目の選挙では前回と同じように、あらかじめ本人に候補者の名前と代理投票したいという言葉を書いてもらい持参しました。今回確認すると事前連絡はしなくても各会場で代理投票の対応をしていただけたとのことでしたので、直接、人の少なそうな日時を選んで期日前投票に行きました。本人としては、名前を書く、選挙に行く、投票するということはある程度理解しているのですが、会場までは静かに行ったものの係りの人にメモを渡した後は、頑張っている自分をアピールする気持ちや感情の高ぶりからか、今回も尻もちについて見せたり「頑張った!」と言ったりしていました。慌てて対応すると逆効果なので淡々と「立とうね」と促し、一緒に投票箱に入れ、退席する時にもまた尻もちをつきつつ…、という感じでした。(人は少ないもののやはり、「他の人に迷惑をかけてはいけな

い」という思いや、周りの人に「何もそこまでして連れてこなくても」との印象を与えたのではないかという思いもありました。ただこれは投票に限らず、通院などいろんなイベント事で見せる姿です)

今回の投票では、お友だちの中でも、代理投票(選挙公報に丸をつけて車椅子のベルトに挟んでいき、投票用紙も自分の手に挟んで投票箱

を近くまで動かしてもらい投票)できたとの話を聞きました。このようなことはまだまだ知らない方、考えていてもどのように投票所へ向かうかなど個人個人いろんなハードルがあり行動に移せない方も見えると思います。小牧市障害者団体連絡会等では、今後「障害特性別投票支援マニュアル」を作られるそうなので、多くの人が選挙に行きやすくなるといいなと思います。

体験談② <Tさんの母>

うちの息子は21歳、今まで4回選挙に行っていますが、毎回白紙で投票するしか方法がなく、毎回これで本当にいいのか?もっといい方法はないかと思いつながらの投票でした。

障害者団体連絡会の研修会に参加し、障害者支援法の施行で投票所での配慮もされるようになっていたり、ヘルパーさんとの投票もできることを知りました。また、代理投票もあるそうです。メモを書いて持って行っても良い、車イスで投票箱に入れられない場合、動かしても良いなど知らなかったことも色々聞いて、モヤモヤとしていた「白票でも大切な一票だ」という気持ちになれたことが一番良かったです。

実は、初めての選挙に行く前はとても悩みました。選挙管理委員会に連絡しても郵送投票をすすめられ、めんどろな手続きがあり、期日も迫ってくるし...、期日前投票は私と息子の予定が合わず。そんな悩みの日々を過ごしていたところ、ラジオ番組の中で選挙について「自分の考えと同じ候補者はなかなかいないので、一番ましな人を選ぶ感覚でいいのでは?」というような話をされていて、こんな風に考えても大丈夫なんだ!!とても気が楽になりました。

当日、散歩がてら内心ドキドキで会場へ。小学校の体育館(居住地校交流で何度も行っている)

の会場は、広いのに半分のスペースしか使われておらず、車イスはかなり邪魔になっていました。係りの方がボードを持って説明は全くなし。事前に意思の確認ができなければ白紙投票でもかまわないと伝えてあり、そのような投票になりました。

帰り際、知り合いの民生委員の方が来てくださり「〇〇君みたいな人が投票することはとても大事なことだよね!」と言ってくださり、うれしかったです。意外と呆気なく終わった初選挙でしたが、息子なりの義務を果たし、社会参加ができたと思っています。

そして、前回の市議会議員選挙(4回目の投票)では、代筆していただき、投票箱を息子の前に持ってきていただいて手を添えて投票できたことは、大きな自信につながり今までの積み重ねが実った主体的な選挙になりました。障害者団体連絡会で勉強していて良かったです。



団体活動報告

小牧市難聴・中途失聴者協会

今冬は、暖かい日々が多かったですね。クリスマスやお正月・節分・立春と春もすぐそこです。

1月の「新年会」は、12月の「耳の不自由な方の交流会」で入会して下さった新しい方々と共に、それぞれに新年の抱負を語りゲームを楽しみました。2月は「こまき山体操」を講師を招き、ペットボトルを使って楽しく体を動かしました。ふれあいセンターでも体験できるそうなので、時間のある会員は参加できそうです。3月は「次年度計画の話し合い」をします。今年度以上に充実した計画をしたいと思います。

2月には毎年開催される「市長を囲む福祉団体懇談会」に副会長が出席をしました。

新年会の抱負の中で「会を創立して何年になる?」「ちょっと待って、2005年の創立!」「え~20年?」。今年はより多くの方に「小牧市難聴・中途失聴者協会」を知っていただきたいと思います。

(古木)



耳マーク

聞こえが不自由なことを表すと同時に、聞こえない人・聞こえにくい人への配慮を表すマーク

ここばかりこまき

11月19日の災害研修以来、ここばかりは残念ながら集まれていません。

そんな中、2024年1月1日、能登半島地震が起きました。私たちの暮らす地域でもかなり揺れたので、不安な経験をしました。その後の報道を見ながら、悲惨な被害状況にあらためて災害の恐ろしさを感じています。

時々映し出されるご高齢の方の姿、環境の変化に不安な様子の障害のある方、不眠不休で、壊れた建物の中で介護を続けられている職員の方々…。そして、画面には映し出されていない様々な生活状況を想像すると、胸が苦しくなります。そして、あらためて私たちの地域にも必ず起こるであろう地震による災害に、備えていかねばと思う新年です。

研修で学んだ「支援者も被災者」という現実を常に意識して、障害のある方やご家族も、今からできることを考えていきましょう。そして、支援者という立場の者としても、自分たちは何が出来るのかをイメージして、様々な備えや準備をしていきましょう。ここばかりとしても、防災のことに引き続き取り組んでいけたらと思います。(御手洗)



自助

(市民力)

共助

(地域力)

公助

(行政力)

小牧市肢体不自由児者父母の会

3月2日、愛知県肢体不自由児者父母の会連合会の理事研修会に参加してきました。厚労省の装具担当官の方を招いての研修会です。

『予算は私たちでは増やせないんです。皆さん、増額してください！と言われますが、それを決めるのは厚労省ではないんです』と前置きがあり、ただ運用でなんとかなるものは、皆さんが利用しやすいものにするために、あえて、きっちりと決めないようになっています、と言うお話がありました、簡単に説明すると

『キッチリ』と「コレとコレダケ」と決めてしまうと他は全てダメ！と言うことになってしまうので、あえてハッキリと文言にしないのだそうです。『ハッキリ書く』のは、実は運用する県市町村の方で決まります。

一例ですが、オムツは日常生活用具として排泄障害のある方に交付されますが、ウエットティッシュは認められない地区があります。「脱脂綿、さらし等」と決められているためです。ですが、これは厚労省で決めたことではないそうです。運用に辺り、『排泄に利用する物品』の中から県市町村で決めたもので、決められた物品として書かれると『ソレ』しか、認められないことになります。

皆さんの困り事が、少しでも『運用』(予算がかからない)の変更で解決できるものもあるので、一緒に考えてほしいとお話がありました。本当は、予算の拡充もしてほしいですが、現状難しいことはわかります。それでも、必要なことだと思います。知恵と工夫も凝らしながら、親亡き後、少しでも安心して生活できるように頑張りたいと思いました。(上田)



▲研修会では、各地で申請される装具の見積もり例を参考に、妥当な申請について考えました

こまき視覚障がい者の会

「アテンドナビ」完成に向けて

視覚障がい者の障がいは「情報障害」であるといわれています。日常にあふれている情報のほとんどが視覚障がい者に届かないものです。そのような情報格差を解決するために行政も試行錯誤しておられるようでしたが、実際のところ「どのようなものが視覚障がい者に届きやすいのか」を、聞いてくれることはありませんでした。

そこで今年度、市民活動助成金での事業の一つに、視覚障がい者に必要な情報だけをピックアップし、当事者がスマホから聞く「福祉ガイド」を作成することにしました。「とにかく始めてみよう、たたき台としてでも世に示せるものができればよいではないか？」という気持ちで、(株)コネクトドットの星野社長に協力を依頼しました。



▲3月9日に行ったアテンドナビ講習会には、35名が参加しました

理解してほしいと受け身になるばかりでは変革は進まないものでしょう。お互いに理解できないことを認めて、理解できるような材料をどんどん提供していくことができれば、視覚障がい者を取り巻く世界が変わっていくと思います。当事者の交流を促せるような魅力のある会であり、その中での毎月のイベントを開催していきたいと思えます。(水谷)



▲アテンドナビの使い方動画

小牧市おもちゃ図書館きらら

■1月21日(日) 勉強会 犬山市おもちゃ図書館『まごころ』

『きらら』と交流がしたいと言う有難い申し出があり、年が明けたこの日に『まごころ』のスタッフが素敵な木のおもちゃをたくさん携えて来てくださいました。

活動形態はきららとは異なるところがありますが、子どもたちのことを思い、おもちゃを通して豊かな遊びを提供するという点で共感できるところがあり、大変勉強になりました。「まごころ」さんの熱い思い、前向きな姿勢を来年度からのきららに活かしていきたいと思いました。



▲木のおもちゃを手にして、感触や遊び方を確かめるボランティアたち

■2月18日(日)遊ぼう DAY「ポッチャで遊ぼう」



▲ポッチャを楽しみに、参加してくれたお子さん

五輪ピックでも使われた本格的ポッチャのセットが借りられることになったので、みんなで体験してみようというワクワクの企画でした。当日は体調不良だったり予定が合わなかったりで、参加者は親子一組だけでしたが、有難いことに前述の『まごころ』さんも来てくださり笑顔の会になりました。ポッチャはとても奥が深いゲームで、高度な技術や戦略やチームワークが必要ですが、誰でもすぐに参加できるという面もあり、とても優れたものだわかりました。参加者の皆さんの温かさや柔軟さで、楽しい時間が持てました。来年度も楽しい企画を考えていきたいです。(船橋)

【会員を募集しています】

小牧市のさまざまな障害者当事者団体、支援者団体がつながって、いろいろな障害のある人の立場を互いに知りあい、共同して市民に向けて発信していくことで、障害のある人も誰もが暮らしやすいまちづくりを進めていくことを目的に活動しています。活動に賛同していただける団体、個人の方を募集しています。

■正会員(団体のみ 年会費 2,000 円) ■団体賛助会員(年会費 1,000 円) ■個人賛助会員(年会費 1,000 円)

※賛助会員は、活動への参加は難しいけれど趣旨に賛同し、イベントへの参加や活動の周知等を通じて応援して下さる会員です。議決権はありませんが、イベント等のご案内を差し上げます。申込みは下記メールアドレスへご連絡ください。

■小牧市障害者団体連絡会加入団体(50音順)：正会員(5) 賛助会員(5)

【正会員】ここぱりこまき、小牧市おもちゃ図書館きらら、こまき視覚障がい者の会、小牧市肢体不自由児者父母の会、小牧市難聴・中途失聴者協会

【賛助会員】小牧市聴覚障害者福祉協会、小牧おひさまクラブ、手話サークルおてだま、手話サークルふたば、全国障害者問題研究会小牧サークルかざぐるま

小牧市障害者団体連絡会通信 2024年3月発行
〒485-0811 小牧市光ヶ丘1-1 アクシス光ヶ丘4-403(山中)
【メール】 mail@komaki-sdr.sakura.ne.jp
【ホームページ】 http://komaki-sdr.sakura.ne.jp

※視覚障害のある方へ
ホームページに本通信の
テキスト版があります。



選挙のバリアフリーについて取り組まれているみなさんと情報共有していきたいと考えています。ぜひ、下記に御連絡をください。

連絡先

小牧市障害者団体連絡会

ホームページ <https://komaki-sdr.sakura.ne.jp>

メールアドレス mail@komaki-sdr.sakura.ne.jp

485-0811 愛知県小牧市光ヶ丘1-1 アクシス光ヶ丘4-403

山中和彦気付

選挙のバリアフリー推進事業実施報告書
(小牧市市民活動助成金交付事業)

2024(令和6)年3月

小牧市障害者団体連絡会／特定非営利活動法人で・ら・しえん